

学校コード F113310103000

注3

設置年度 令和 4年度

計画の区分： 学部の設置

注1

認可

注2

國學院大學 観光まちづくり学部

【認可】 設置に係る設置計画履行状況報告書

学校法人國學院大學
令和4年5月1日現在

作成担当者

総合企画部企画課

職名・氏名

シュニン オオヤヒデヒロ
主任・大矢英広

電話番号

03-5466-0395

(夜間)

03-5466-0395

e-mail

kikaku@kokugakuin.ac.jp

- (注) 1 「計画の区分」は設置時の基本計画書「計画の区分」と同様に記載してください。
2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院・・・」と記入してください。
設置時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には現在の名称を記載し、その下欄に
() 書きにて、設置時の旧名称を記載してください。

例) 〇〇大学 △△学部 □□学科

(旧名称：◇◇学科(平成◇◇年度より学科名称変更))

表題は「計画の区分」に従い、記入してください。

例)

- 大学の設置の場合：「〇〇大学」
 - 学部の設置の場合：「〇〇大学 △△学部」
 - 学部の学科の設置の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科」
 - 短期大学の学科の設置の場合：「〇〇短期大学 △△学科」
 - 大学院設置の場合：「〇〇大学大学院」
 - 大学院の研究科の設置の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科」
 - 大学院の研究科の専攻の設置等の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科 〇〇専攻(修士課程)」
 - 通信教育課程の開設の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科(通信教育課程)」
- 3 学校コードについては、以下URLを確認の上、該当番号を記載してください。

なお、該当がない場合は、本番号は学校基本調査での「学校コード」と同様の番号ですので、当該番号を記載してください。

https://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/mext_01087.html

目次

観光まちづくり学部

1. 調査対象大学等の概要等	3
2. 授業科目の概要	7
3. 施設・設備の整備状況、経費	13
4. 既設大学等の状況	14
5. 教員組織の状況	17
6. 附帯事項等に対する履行状況等	29
7. その他全般的事項	30

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設置者

学校法人國學院大學

(2) 大学名

國學院大學

(3) 調査対象大学等の位置

〒225-0003

神奈川県横浜市青葉区新石川三丁目22番地1

(〒150-8440)

(東京都渋谷区東四丁目10番28号)

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職名	設置時	変更状況	備考
理事長	(サナギ ショウゾウ) 佐柳 正三 (平成31年4月8日)		
学長	(ハリモト マサユキ) 針本 正行 (平成31年4月1日)		
学部長	(ニシムラ ユキオ) 西村 幸夫 (令和4年4月1日)		
学科長等	(ウメカワ トモヤ) 梅川 智也 (令和4年4月1日)		副学部長

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してください。
(例) 令和3年度に報告済の内容 → (3)
令和4年度に報告する内容 → (4)
・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部の学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください（入試区分ごとではありません）。
- ・ なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている最小単位（大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」）のほか、それらのコースや専攻単位でも記載したものを、別ファイルにて提出してください（作成方法は、事務連絡「令和4年度の履行状況報告書の提出について（依頼）」を確認してください）。
- ・ 様式は、平成30年度開設の4年制の学科の完成年度を越えて報告する場合（令和4年度までの5年間）ですが、完成年度を越えている場合は別途ご連絡ください。
- ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）により、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
- ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。

(5) - ① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の名称（学位）	学位又は学科の分野	設置時の計画				学生募集の停止について	備考
		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員		
観光まちづくり学部 観光まちづくり学科 学士（観光まちづくり）	社会学・社会福祉学関係	4 年	300 人	年次 人	1200 人		

- (注) ・ 定員を変更した場合は、「備考」に変更前の人数、変更年月及び報告年度を（ ）書きで記入してください。
- ・ 基礎となる学部等がある場合には、「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
- ・ 「学位又は学科の分野」には、「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要（別記様式第2号（その2の1））」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。
- ・ 学生募集停止を予定している場合は、「学生募集の停止について」で「新規入学者を募集停止予定」を選択するとともに、「備考」に「令和〇年度から学生募集停止（予定）」と記載してください。

(5) - ② 調査対象学部等の入学者の状況

区分	平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		平均入学定員超過率	開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期			
A 入学定員	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	300人 (-) [0]	- (-) []	1.00倍	一倍	
志願者数	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	2,494 (-) [0]	- (-) []			
受験者数	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	2,453 (-) [0]	- (-) []			
合格者数	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	789 (-) [0]	- (-) []			
B 入学者数	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	301 (-) [0]	- (-) []			
入学定員超過率 B/A									1.00				

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。（過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。）
- ・ () 内には、編入学の状況について外数で記入してください。なお、編入学を複数年次で行っている場合には、(())書きとするなどし、その旨を「備考」に付記してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
- ・ 転入学生は記入しないでください。
- ・ [] 内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
- ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
- ・ 「入学定員超過率」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した入学定員、入学者数で算出してください。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
- ・ 「平均入学定員超過率」には、開設年度から報告年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。なお、完成年度を越えて報告書を提出する大学等は、報告年度（令和4年度）から起算した修業年限に相当する期間の入学定員超過率の平均を記載してください。
- ・ 「開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率」は、完成年度を越えて報告書を提出する大学等のみ記入してください。完成年度を越えていない場合は「-」を記入してください。

(5) - ③ 調査対象学部等の在学者の状況

対象年度 学 年	平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1年次	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	301 [-]	- [-]	
2年次	/		[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	
3年次			/		/		[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()
4年次	/						/		[] ()	[] ()	[] ()
計			[] ()	[] ()	[] ()	[] ()			[] ()	[] ()	[] ()

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
 - ・ ()内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 - ・ 編入学生や転入学生も含めて記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数を記入してください。

(5) - ④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	在学者数(b)	退学者数(a)	内訳			主な退学理由 (留学生の理由は[]書き)
			入学した年度	退学者数		
				うち留学生数		
平成30年度	人	人	平成30年度	人	人	
令和元年度	人	人	平成30年度	人	人	
			令和元年度	人	人	
令和2年度	人	人	平成30年度	人	人	
			令和元年度	人	人	
			令和2年度	人	人	
令和3年度	人	人	平成30年度	人	人	
			令和元年度	人	人	
			令和2年度	人	人	
			令和3年度	人	人	
令和4年度	301人	0人	平成30年度	人	人	
			令和元年度	人	人	
			令和2年度	人	人	
			令和3年度	人	人	
			令和4年度	0人	0人	
合計		0人		0人	0人	

- (注)・数字は、報告年度の5月1日現在の数字を記入してください。
- ・各対象年度の在学者数については、対象年度の人数を記入してください。(在学者数から退学者数を減らす必要はありません。)
 - ・内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
 - ・在学者数、退学者数には編入学生や転入学生も含めて記入してください。
 - ・「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(○人)」というように、その人数も含めて記入してください。
 (記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
 ・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(5) - ⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【平成30年度】

$$\frac{\text{平成30年度の退学者数(a)}}{\text{平成30年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{\#DIV/0!} \%$$

【令和元年度】

$$\frac{\text{令和元年度の退学者数(a)}}{\text{令和元年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{\#DIV/0!} \%$$

【令和2年度】

$$\frac{\text{令和2年度の退学者数(a)}}{\text{令和2年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{\#DIV/0!} \%$$

【令和3年度】

$$\frac{\text{令和3年度の退学者数(a)}}{\text{令和3年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{\#DIV/0!} \%$$

【令和4年度】

$$\frac{\text{令和4年度の退学者数(a)}}{\text{令和4年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{301} = \boxed{0} \%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

2 授業科目の概要

<観光まちづくり学部 観光まちづくり学科>

(1) ① 授業科目表

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年度	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
共通教育科目	神道と文化	1 前	2								2
	國學院の学び(國學院大学の歴史と未来)	1・2 前	2								1
	日本文化を知る(日本文化の普遍性と固有性)	1・2 後	2								1
	日本文化を知る(儀礼文化研究)	1・2 後	2								1
	日本文化を知る(武道の特性と国際化)	1・2 後	2								1
	日本文化を知る(日本文化論と日本神話)	1・2 後	2								1
	Japan Studies	2・3 前	2								1
小計(7科目)	-	-	2	12	0	0	0	0	0	0	7
言語スキル科目群	基礎日本語	1・2 後	2								1
	英語 I	1 前	2								5
	英語 II	1 後	2								5
	英語 III	2 前	2								5
	英語 IV	2 後	2								5
	ドイツ語 I	1 前	2								2
	ドイツ語 II	1 後	2								2
	フランス語 I	1 前	2								2
	フランス語 II	1 後	2								2
	中国語 I	1 前	2								3
	中国語 II	1 後	2								3
	コリア語 I	1 前	2								1
	コリア語 II	1 後	2								1
	スペイン語 I	1 前	2								1
	スペイン語 II	1 後	2								1
小計(15科目)	-	-	8	22	0	0	0	0	0	0	20
STEM系科目群	コンピュータと情報 I	1・2 前・後	2								2
	コンピュータと情報 II	1・2 後	2								1
	情報科学入門	1・2 前	2								1
	地球環境と人間	1・2 後	2								1
	宇宙物理学入門	1・2 前	2								1
科学的思考法	1・2 後	2								1	
小計(6科目)	-	-	0	12	0	0	0	0	0	0	4
シチズンシップ科目群	法学(日本国憲法)	1・2 前	2								1
	法と社会参加(企業での活動と法)	1・2 後	2								1
	政治と社会参加(社会を変えるNPO活動)	1・2 後	2								1
	行政と市民生活(デジタル時代の行政と社会)	1・2 前	2								1
	小計(4科目)	-	-	0	8	0	0	0	0	0	0
専門教養科目群	比較文化論 I	1・2 後	2								1
	日本の経済	1・2 前	2								1
	経済理論入門	1・2 後	2								1
	経済経営数学入門	1・2 前	2								1
	経済学史入門	1・2 後	2								1
小計(5科目)	-	-	0	10	0	0	0	0	0	0	3
ラフターズ科目群	スポーツ実技A	1・2 前	1								2
	スポーツ実技B	1・2 後	1								2
	スポーツ科学論	1・2 後	2								1
	小計(3科目)	-	-	0	4	0	0	0	0	0	0
専門教育科目	社会学概論	1 前	2			2			1	1	1
	まちづくりと観光	1 前	2			1			1	1	1
	小計(2科目)	-	-	4	0	0	1	3	0	1	2
メソッド科目	社会調査法入門	1 前	2			1				1	1
	統計分析の基礎	1 後	2		1						1
	プログラミングと数学基礎	1 後	2			1					1
	パブリックデザイン(地域と公共空間)	2・3 前	2		1						1
	プロダクトデザイン(地域と杉)	2・3 後	2		1						1
	データサイエンス	2・3 後	2				1				1
	質的調査法	2・3 後	2								1
	多変量解析	3 前	2								1
	地理空間情報分析	3 前	2					1			1
小計(9科目)	-	-	2	16	0	2	1	2	0	1	2
演習科目	導入ゼミナール	1 前	2		13	6	1				1
	観光まちづくり演習 I(調査手法)	2 前	2		1	3	2		5	1	1
	観光まちづくり演習 II(地域分析)	2 後	4		15	8	3	1	5		1
	観光まちづくり演習 III(構想・提案)	3 前	4		14	8	3	1	5		1
	専門ゼミナール	3 通	2		16	9	3	1			1
	卒業研究	4 通	4		16	9	3	1			1
	基礎ゼミナールA	1 後	2		8	8	1	1			1
	基礎ゼミナールB	2 前	2		11	3	3				1
小計(8科目)	-	-	18	4	0	17	9	3	1	5	1
展開科目	文化社会学	1 後	2							1	1
	コミュニケーション論	1 後	2			1					1
	地域と環境の社会学	2 前	2			1				1	1
	グローバルイノベーション論	2 前	2		1						1

【令和4年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年度	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
共通教育科目	神道と文化	1 前	2								2
	國學院の学び(國學院大学の歴史と未来)	1・2 前	2								1
	日本文化を知る(日本文化の普遍性と固有性)	1・2 後	2								1
	日本文化を知る(儀礼文化研究)	1・2 後	2								1
	日本文化を知る(武道の特性と国際化)	1・2 後	2								1
	日本文化を知る(日本文化論と日本神話)	1・2 後	2								1
	Japan Studies	2・3 前	2								1
小計(7科目)	-	-	2	12	0	0	0	0	0	0	7
言語スキル科目群	基礎日本語	1・2 後	2								1
	英語 I	1 前	2								5
	英語 II	1 後	2								5
	英語 III	2 前	2								5
	英語 IV	2 後	2								5
	ドイツ語 I	1 前	2								2
	ドイツ語 II	1 後	2								2
	フランス語 I	1 前	2								2
	フランス語 II	1 後	2								2
	中国語 I	1 前	2								3
	中国語 II	1 後	2								3
	コリア語 I	1 前	2								1
	コリア語 II	1 後	2								1
	スペイン語 I	1 前	2								1
	スペイン語 II	1 後	2								1
小計(15科目)	-	-	8	22	0	0	0	0	0	0	20
STEM系科目群	コンピュータと情報 I	1・2 前・後	2								2
	コンピュータと情報 II	1・2 後	2								1
	情報科学入門	1・2 前	2								1
	地球環境と人間	1・2 後	2								1
	宇宙物理学入門	1・2 前	2								1
科学的思考法	1・2 後	2								1	
小計(6科目)	-	-	0	12	0	0	0	0	0	0	4
シチズンシップ科目群	法学(日本国憲法)	1・2 前	2								1
	法と社会参加(企業での活動と法)	1・2 後	2								1
	政治と社会参加(社会を変えるNPO活動)	1・2 後	2								1
	行政と市民生活(デジタル時代の行政と社会)	1・2 前	2								1
	小計(4科目)	-	-	0	8	0	0	0	0	0	0
専門教養科目群	比較文化論 I	2 後	2								1
	日本の経済	1・2 前	2								1
	経済理論入門	1・2 前	2								1
	経済経営数学入門	1・2 前	2								1
	経済学史入門	1・2 前	2								1
小計(5科目)	-	-	0	10	0	0	0	0	0	0	3
ラフターズ科目群	スポーツ実技A	1・2 前	1								2
	スポーツ実技B	1・2 後	1								2
	スポーツ科学論	1・2 後	2								1
	小計(3科目)	-	-	0	4	0	0	0	0	0	0
専門教育科目	社会学概論	1 前	2			2			1	1	1
	まちづくりと観光	1 前	2			1			1	1	1
	小計(2科目)	-	-	4	0	0	1	3	0	1	2
メソッド科目	社会調査法入門	1 前	2			1				1	1
	統計分析の基礎	1 後	2		1						1
	プログラミングと数学基礎	1 後	2			1			1		1
	パブリックデザイン(地域と公共空間)	2・3 前	2		1						1
	プロダクトデザイン(地域と杉)	2・3 後	2		1						1
	データサイエンス	2・3 後	2				1				1
	質的調査法	2・3 後	2								1
	多変量解析	3 前	2								1
	地理空間情報分析	3 前	2					1			1
小計(9科目)	-	-	2	16	0	2	1	2	0	1	2
演習科目	導入ゼミナール	1 前	2		13	6	1				1
	観光まちづくり演習 I(調査手法)	2 前	2		1	3	2		5	1	1
	観光まちづくり演習 II(地域分析)	2 後	4		15	8	3	1	5		1
	観光まちづくり演習 III(構想・提案)	3 前	4		14	8	3	1	5		1
	専門ゼミナール	3 通	2		16	9	3	1			1
	卒業研究	4 通	4		16	9	3	1			1
	基礎ゼミナールA	1 後	2		8	8	1	1			1
	基礎ゼミナールB	2 前	2		11	3	3				1
小計(8科目)	-	-	18	4	0	17	9	3	1	5	1
展開科目	文化社会学	1 後	2							1	1
	コミュニケーション論	1 後	2			1					1
	地域と環境の社会学	2 前	2			1				1	1

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門教育科目	基礎Ⅱ類(資源)	地域資源論	1 後	2			3				1	
		博物館概論	1 後	2			1					
		都市建築史	2 前	2			1					
		民俗学概論	2 前	2			1					
		保全生態学概論	2 前	2			2					
	基礎Ⅱ類(政策・計画)	公共政策概論	1 後	2			1				1	
		地方自治概論	2 前	2			1					
		地域デザイン論	2 前	2			1					
		国土・都市計画論	2 前	2			1					
		都市と地域の交通	2 前	2			1					
	基礎Ⅱ類(観光)	観光学概論	1 後	2			1				1	
		観光マーケティング	1 後	2			1					
		観光政策・計画論	2 前	2			2					
		観光事業論	2 前	2			1					
	発展Ⅰ類(社会)	都市とメディアの社会学	2・3 後	2			1					
ジェンダーの社会学		2・3 後	2			2					1	
コミュニティ論		3 前	2			2					1	
NPOと市民社会		3 前	2			2					1	
観光社会学		3 前	2			1						
発展Ⅱ類(資源)	文化人類学	3 後	2			2					1	
	地域遺産論	2・3 後	2			1						
	地域文化創造論	2・3 後	2			1						
	風景計画論	2・3 後	2			1						
	レクリエーション計画論	2・3 後	2			2					1	
発展Ⅲ類(政策・計画)	文化行政・文化財行政概論	3 前	2			2				2		
	自然/環境保護行政概論	3 前	2			2					1	
	世界遺産論	3 後	2			2				1		
	行財政概論	2・3 後	2			2					1	
	まちづくり論	2・3 後	2			1						
発展Ⅳ類(交流・産業)	農山漁村論	2・3 後	2			2					1	
	都市保全論	3 前	2			2				1		
	交通計画	3 前	2			1						
	住民参加と合意形成	3・4 前	2			1						
	地域減災論	3・4 前	2			1						
トビックス科目	リノベーション論	3 後	2			1				1		
	アートと地域振興	3 後	2			1				1		
	観光行動論	2・3 後	2			2					1	
	ホスピタリティ・マネジメント論	2・3 後	2			2					1	
	地域の観光情報メディア	2・3 後	2			1						
	旅行産業論	2・3 後	2			1						
	宿泊産業論	2・3 後	2			1						
	観光地経営論	3 前	2			2						
	観光食マネジメント論	3・4 前	2			1						
	世界の観光政策	3・4 前	2			1						
観光経済論	3 後	2			1							
田園回帰論	3 後	2			1							
小計(50科目)	-		6	94	0	15	9	1	1	3	10	
トビックス科目	経営学概論	1・2 後	2			2					1	
	地域ブランディング論	2・3 前	2			2					1	
	ソーシャル・イノベーション	2・3 後	2			2					1	
	運輸・観光実践論	2・3 後	2			2					1	
	不動産投資論	3・4 前	2			2					1	
	文化芸術政策論	3 後	2			2					1	
	観光危機管理論	3 後	2			2					1	
	観光まちづくりインターンシップ	3 通	2			1				2	1	
	小計(8科目)	-		0	16	0	1	2	0	0	1	7
	関連科目	哲学・倫理学	1 前	2								1
地理学概論		1 後	2								1	
地域と都市の経済		1・2 後	2								1	
神道と環境 I		2 前	2								1	
観光心理学		2 後	2								1	
神社ネットワーク論 I		2・3 後	2								1	
小計(6科目)	-		0	12	0	0	0	0	0	0	6	
博物館学課程科目	生涯学習概論	2 前		2							1	
	博物館資料論	2 前		2		1					1	
	博物館教育論	2 後		2							1	
	博物館資料保存論	2 後		2							1	
	博物館展示論	3 前		2							1	
	博物館経営論	3 後		2							1	
	博物館情報・メディア論	3 前		2							1	
	博物館実習A	3 後		1		1					2	
	博物館実習B	4 前		2		1					1	
小計(9科目)	-		0	0	17	0	1	0	0	0	6	
合計(132科目)	-		40	210	17	17	9	3	1	6	72	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門教育科目	基礎Ⅱ類(資源)	地域資源論	1 後	2			3				1	
		博物館概論	1 後	2			1					
		都市建築史	2 前	2			1					
		民俗学概論	2 前	2			1					
		保全生態学概論	2 前	2			2					
	基礎Ⅱ類(政策・計画)	公共政策概論	1 後	2			1				1	
		地方自治概論	2 前	2			1					
		地域デザイン論	2 前	2			1					
		国土・都市計画論	2 前	2			1					
		都市と地域の交通	2 前	2			1					
	基礎Ⅱ類(観光)	観光学概論	1 後	2			1				1	
		観光マーケティング	1 後	2			1					
		観光政策・計画論	2 前	2			2					
		観光事業論	2 前	2			1					
	発展Ⅰ類(社会)	都市とメディアの社会学	2・3 後	2			1					
ジェンダーの社会学		2・3 後	2			2					1	
コミュニティ論		3 前	2			2					1	
NPOと市民社会		3 前	2			2					1	
観光社会学		3 前	2			1						
発展Ⅱ類(資源)	文化人類学	3 後	2			2					1	
	地域遺産論	2・3 後	2			1						
	地域文化創造論	2・3 後	2			1						
	風景計画論	2・3 後	2			1						
	レクリエーション計画論	2・3 後	2			2					1	
発展Ⅲ類(政策・計画)	文化行政・文化財行政概論	3 前	2			2				2		
	自然/環境保護行政概論	3 前	2			2					1	
	世界遺産論	3 後	2			2				1		
	行財政概論	2・3 後	2			2					1	
	まちづくり論	2・3 後	2			1						
発展Ⅳ類(交流・産業)	農山漁村論	2・3 後	2			2					1	
	都市保全論	3 前	2			2				1		
	交通計画	3 前	2			1						
	住民参加と合意形成	3・4 前	2			1						
	地域減災論	3・4 前	2			1						
トビックス科目	リノベーション論	3 後	2			1				1		
	アートと地域振興	3 後	2			1				1		
	観光行動論	2・3 後	2			2					1	
	ホスピタリティ・マネジメント論	2・3 後	2			2					1	
	地域の観光情報メディア	2・3 後	2			1						
	旅行産業論	2・3 後	2			1						
	宿泊産業論	2・3 後	2			1						
	観光地経営論	3 前	2			2						
	観光食マネジメント論	3・4 前	2			1						
	世界の観光政策	3・4 前	2			1						
観光経済論	3 後	2			1							
田園回帰論	3 後	2			1							
小計(50科目)	-		6	94	0	15	9	1	1	3	10	
トビックス科目	経営学概論	1・2 後	2			2					1	
	地域ブランディング論	2・3 前	2			2					1	
	ソーシャル・イノベーション	2・3 後	2			2					1	
	運輸・観光実践論	2・3 後	2			2					1	
	不動産投資論	3・4 前	2			2					1	
	文化芸術政策論	3 後	2			2					1	
	観光危機管理論	3 後	2			2					1	
	観光まちづくりインターンシップ	3 通	2			1				2	1	
	小計(8科目)	-		0	16	0	1	2	0	0	1	7
	関連科目	哲学・倫理学	1 前	2								1
地理学概論		1 後	2								1	
地域と都市の経済		1・2 後	2								1	
神道と環境 I		2 前	2								1	
観光心理学		2 後	2								1	
神社ネットワーク論 I		2・3 後	2								1	
小計(6科目)	-		0	12	0	0	0	0	0	0	6	
博物館学課程科目	生涯学習概論	2 前		2							1	
	博物館資料論	2 前		2		1					1	
	博物館教育論	2 後		2							1	
	博物館資料保存論	2 後		2							1	
	博物館展示論	3 前		2							1	
	博物館経営論	3 後		2							1	
	博物館情報・メディア論	3 前		2							1	
	博物館実習A	3 後		1		1					2	
	博物館実習B	4 前		2		1					1	
小計(9科目)	-		0	0	17	0	1	0	0	0	6	
合計(132科目)	-		40	210	17	17	9	3	1	6	72	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担
			必修	選択	自由	教	准教	講	助	助	
卒業要件及び履修方法											
○以下の単位修得条件を満たし、共通教育科目から26単位以上、専門教育科目から74単位以上を修得し、合計124単位以上を修得するものとする。											
【共通教育科目】(26単位以上)											
・「神道と文化」「英語Ⅰ」「英語Ⅱ」「英語Ⅲ」「英語Ⅳ」を必修科目とする。											
・「ドイツ語Ⅰ」「フランス語Ⅰ」「中国語Ⅰ」「ロシア語Ⅰ」「スペイン語Ⅰ」から1科目2単位以上を選択必修とする。											
・「ドイツ語Ⅱ」「フランス語Ⅱ」「中国語Ⅱ」「ロシア語Ⅱ」「スペイン語Ⅱ」から1科目2単位以上を選択必修とする。											
【専門教育科目】(74単位以上)											
・導入科目として、「社会学概論」「まちづくりと観光」を必修科目とする。											
・メソッド科目においては、「社会調査法入門」を必修科目とし、「統計分析の基礎」「プログラミングと数学基礎」「ハブリックデザイン(地域と公共空間)」「プロダクトデザイン(地域と杉)」「データサイエンス」「質的調査法」「多変量解析」「地理空間情報分析」の8科目16単位から2科目4単位以上を選択必修とする。											
・演習科目においては、「導入ゼミナール」「観光まちづくり演習Ⅰ(調査手法)」「観光まちづくり演習Ⅱ(地域分析)」「観光まちづくり演習Ⅲ(構想・提案)」「専門ゼミナール」「卒業研究」を必修科目とし、「基礎ゼミナールA」と「基礎ゼミナールB」の2科目4単位から1科目2単位以上を選択必修とする。											
・展開科目基礎Ⅰ類(社会)においては、「文化社会学」「コミュニケーション論」「地域と環境の社会学」「グローバリゼーション論」の4科目8単位から2科目4単位以上を選択必修とする。											
・展開科目基礎Ⅱ類(資源)においては、「地域資源論」を必修科目とし、「博物館概論」「都市建築史」「民俗学概論」「保全生態学概論」の4科目8単位から2科目4単位以上を選択必修とする。											
・展開科目基礎Ⅲ類(政策・計画)においては、「公共政策概論」を必修科目とし、「地方自治概論」「地域デザイン論」「国土・都市計画論」「都市と地域の交通」の4科目8単位から2科目4単位以上を選択必修とする。											
・展開科目基礎Ⅳ類(交流・産業)においては、「観光学概論」を必修科目とし、「観光マーケティング」「観光政策・計画論」「観光事業論」の3科目6単位から2科目4単位以上を選択必修とする。											
・展開科目全体においては、必修科目と選択必修科目を含めて、基礎から26単位以上、発展から12単位以上を修得することとし、合計44単位以上を修得することとする。											
○履修科目の登録上限 各年度の履修科目の登録の上限は、1年次:42単位、2年次:42単位、3年次:42単位、4年次:48単位とする。											

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担
			必修	選択	自由	教	准教	講	助	助	
卒業要件及び履修方法											
○以下の単位修得条件を満たし、共通教育科目から26単位以上、専門教育科目から74単位以上を修得し、合計124単位以上を修得するものとする。											
【共通教育科目】(26単位以上)											
・「神道と文化」「英語Ⅰ」「英語Ⅱ」「英語Ⅲ」「英語Ⅳ」を必修科目とする。											
・「ドイツ語Ⅰ」「フランス語Ⅰ」「中国語Ⅰ」「ロシア語Ⅰ」「スペイン語Ⅰ」から1科目2単位以上を選択必修とする。											
・「ドイツ語Ⅱ」「フランス語Ⅱ」「中国語Ⅱ」「ロシア語Ⅱ」「スペイン語Ⅱ」から1科目2単位以上を選択必修とする。											
・「コンピュータと情報Ⅰ」「コンピュータと情報Ⅱ」「情報科学入門」「科学的思考法」「地球環境と人間」「宇宙物理学入門」から1科目2単位以上を選択必修とする。											
【専門教育科目】(74単位以上)											
・導入科目として、「社会学概論」「まちづくりと観光」を必修科目とする。											
・メソッド科目においては、「社会調査法入門」を必修科目とし、「統計分析の基礎」「プログラミングと数学基礎」「ハブリックデザイン(地域と公共空間)」「プロダクトデザイン(地域と杉)」「データサイエンス」「質的調査法」「多変量解析」「地理空間情報分析」の8科目16単位から2科目4単位以上を選択必修とする。											
・演習科目においては、「導入ゼミナール」「観光まちづくり演習Ⅰ(調査手法)」「観光まちづくり演習Ⅱ(地域分析)」「観光まちづくり演習Ⅲ(構想・提案)」「専門ゼミナール」「卒業研究」を必修科目とし、「基礎ゼミナールA」と「基礎ゼミナールB」の2科目4単位から1科目2単位以上を選択必修とする。											
・展開科目基礎Ⅰ類(社会)においては、「文化社会学」「コミュニケーション論」「地域と環境の社会学」「グローバリゼーション論」の4科目8単位から2科目4単位以上を選択必修とする。											
・展開科目基礎Ⅱ類(資源)においては、「地域資源論」を必修科目とし、「博物館概論」「都市建築史」「民俗学概論」「保全生態学概論」の4科目8単位から2科目4単位以上を選択必修とする。											
・展開科目基礎Ⅲ類(政策・計画)においては、「公共政策概論」を必修科目とし、「地方自治概論」「地域デザイン論」「国土・都市計画論」「都市と地域の交通」の4科目8単位から2科目4単位以上を選択必修とする。											
・展開科目基礎Ⅳ類(交流・産業)においては、「観光学概論」を必修科目とし、「観光マーケティング」「観光政策・計画論」「観光事業論」の3科目6単位から2科目4単位以上を選択必修とする。											
・展開科目全体においては、必修科目と選択必修科目を含めて、基礎から26単位以上、発展から12単位以上を修得することとし、合計44単位以上を修得することとする。											
○履修科目の登録上限 各年度の履修科目の登録の上限は、1年次:42単位、2年次:42単位、3年次:42単位、4年次:48単位とする。											

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
 - ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引き」の「教育課程等の概要」を確認してください。
 - ・ 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の授業科目全て(兼任・兼担教員が担当する科目を含む。)を黒字で記入してください。その上で、各年度については、認可時又は届出時から変更となっている箇所は**本字**としてください。
 - ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても科目名の後に「(未開講)」として記入してください。
 - ・ 1ページ目には認可時又は届出時と報告年度2つの表を記入してください。
 - ・ 不要な年度(令和2年度開設であれば令和元年度)の表は適宜削除してください。(2つの表が1ページに表示されるようにしてください。)
 - ・ 専門職大学等の場合、「実験、実習又は実技による授業科目」には「【※】」、「臨地実務実習」による授業科目には「【臨】」、「連携実務実習」による授業科目には「【連】」を授業科目の名称の右側に記入してください。

(1) ①授業科目表に関する変更内容

【令和4年度】

<ul style="list-style-type: none"> ・ 科目供出している文学部の開講学年に合わせて、「比較文化論Ⅰ」の開講年度を「1・2年」から「2年」に変更。 ・ 教育効果を考慮した結果、「経済理論入門」の開講時期を「1年後」から「1年前」に変更。 ・ 教育効果を考慮した結果、「経済学入門」の開講時期を「1年後」から「1年前」に変更。 ・ 科目供出している経済学部のカリキュラムに合わせて、1年次開講「経済理論入門」の修得を履修の条件とするため、「地域と都市の経済」の開講年度を「1年後」から「2年後」に変更。 ・ 「博物館実習A」について、文部科学省「博物館実習ガイドライン」に合わせて、科目単位数を「1単位」から「2単位」に変更。 ・ 「博物館実習B」について、文部科学省「博物館実習ガイドライン」に合わせて、科目単位数を「2単位」から「1単位」に変更し、開講時期を「4年前」から「4年通」に変更。 ・ コンピュータの知識や数学的な思考の修得を推奨するため、共通教育科目の選択必修の条件として、「コンピュータと情報Ⅰ」「コンピュータと情報Ⅱ」「情報科学入門」「科学的思考法」「地球環境と人間」「宇宙物理学入門」から1科目2単位以上を選択必修とすることを追加。

- (注) ・ 2(1)①授業科目表に記入された各年度における変更内容(配当年次の変更、専任教員等の配置の変更、授業科目の変更、新規科目の追加など)を簡略書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。
 - ・ 不要な年度(令和2年度開設であれば令和元年度)の表は適宜削除してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計 (A)	必修	選択	自由	計	
17 科目	106 科目	9 科目	132 科目	17 科目 [0]	106 科目 [0]	9 科目 [0]	132 科目 [0]	

(注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[] 内に、設置時の計画からの増減を記入してください。(記入例：1科目減の場合：△1)

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由, 代替措置の有無
1	比較文化論Ⅰ	2	2年・後	一般	選択	開講年次の変更のため(1年次⇒2年次)
2	地域と都市の経済	2	2年・後	専門	選択	開講年次の変更のため(1年次⇒2年次)
3						

- (注) ・ 配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については記入しないでください。
 - ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。
 - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由, 代替措置の有無
1						
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止(教育課程から削除)した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」として記入してください。
 - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

未開講科目の2科目については、科目供出している学部のカリキュラムに合わせて開講年次を1年次から2年次に変更した。学生に対しては、入学時に配付した「履修要綱」や年度当初に実施したガイダンス等で周知している。

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目(3)と廃止科目(4)の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計(A)}} = \frac{2}{132} = \boxed{1.51}\%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。
・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「(3)未開講科目」と「(4)廃止科目」の合計数となるように留意してください。

3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容				備 考			
(1) 校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	【借用面積】 4,763.07㎡ 【借用期間】 令和2年3月1日～ 令和31年3月31日			
	校舎敷地	53,876㎡	0㎡	0㎡	53,876㎡				
	運動場用地	58,622㎡	0㎡	0㎡	58,622㎡				
	小 計	112,498㎡	0㎡	0㎡	112,498㎡				
	そ の 他	44,947㎡	0㎡	0㎡	44,947㎡				
合 計	157,445㎡	0㎡	0㎡	157,445㎡					
(2) 校 舎	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	【借用面積】 4,763.07㎡ 【借用期間】 令和2年3月1日～ 令和31年3月31日				
	116,772㎡ (116,772㎡)	0㎡ (0㎡)	0㎡ (0㎡)	116,772㎡ (116,772㎡)					
(3) 教 室 等	講 義 室	演 習 室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体			
	129室 130室	47室	20室	9室 (補助職員 9人)	1室 (補助職員 0人)				
(4) 専任教員研究室	新設学部等の名称			室 数					
	観光まちづくり学部 観光まちづくり学科			30 室					
(5) 図 書 ・ 設 備	新設学部等の 名称	図 書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕 種	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標 本 点	「図書」「学術雑誌 (電子ジャーナル含む)」「視聴覚資料」 については、学部単位 での特定不能なため、 大学全体の数	
	観光まちづくり 学部	1,637,460 [332,279] 1,628,973 -[331,691]	10,822 [2,137] 10,828 -[2,148]	77,052 [74,607] 35,087 -[33,883]	455,744 457,205	30 20	0		
		(1,601,127 [332,404]) (1,603,863 -[332,347])	(10,511 [2,116]) (10,671 -[2,134])	(51,063 [49,397]) (33,868 -[32,700])	(454,087) (455,574)	(30) (20)	(0)		
	計	1,637,460 [332,279] 1,628,973 -[331,691]	10,822 [2,137] 10,828 -[2,148]	77,052 [74,607] 35,087 -[33,883]	455,744 457,205	30 20	0		
	(1,601,127 [332,404]) (1,603,863 -[332,347])	(10,511 [2,116]) (10,671 -[2,134])	(51,063 [49,397]) (33,868 -[32,700])	(454,087) (455,574)	(30) (20)	(0)			
(6) 図 書 館	面 積		閲 覧 座 席 数		収 納 可 能 冊 数			大学全体	
	7,387㎡		864		2,150,000				
(7) 体 育 館	面 積		体 育 館 以 外 の ス ポ ー ツ 施 設 の 概 要						
	6,211㎡		テ ニ ス コ ー ト 13 面 ト レ ー ニ ン グ ル ー ム 4 室						
(8) 経 費 の 見 積 り 及 び 維 持 方 法 の 概 要	経 費 の 見 積 り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度	図書費には電子ジャー ナル・データベースの 整備費(運搬用コスト 含む)を含む。
		教員1人当り研究費等	350千円	350千円	図書購入費	15,000千円	22,500千円	30,000千円	
	共同研究費等	650千円	650千円	設備購入費	346,379千円 150,000千円	5,000千円	5,000千円		
	学生1人当り 納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次		
	1,300千円	1,060千円	1,060千円	1,060千円	— 千円	— 千円			
学生納付金以外の維持方法の概要			手数料収入、補助金収入、寄付金収入、資金運用収入を充当						

(注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。)

- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
- ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には令和4年5月1日現在の数値を記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(4)」を「備考」に赤字で記入してください。
 なお、昨年度の報告において赤字で見え消した部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
- ・ 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。
- ・ 国立大学については「(8)経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4. 既設大学等の状況

大学の名称	國學院大學					平均入学定員超過率	令和4年度入学定員超過率	1 学生募集停止学科数	平均入学定員超過率1.3倍以上の学科数	0	備考
	既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員						
	年	人	年次人	人		倍	倍	年度	年度	年度	
文学部	4	685	-	2,740	-	1.03	1.06	-	昭和23	-	
日本文学科	4	250	-	1,000	学士(文学)	1.03	1.08	-	平成8	東京都渋谷区東四丁目10番28号	※令和4年度より入学定員減(255人⇒250人)。令和3年度届出済。
中国文学科	4	60	-	240	学士(文学)	1.05	1.01	-	平成8	同上	
外国語文化学科	4	120	-	480	学士(文学)	1.02	1.05	-	平成8	同上	
史学科	4	190	-	760	学士(文学)	1.03	1.05	-	昭和23	同上	
哲学科	4	65	-	260	学士(文学)	1.05	1.09	-	昭和23	同上	
法学部	4	500	-	2,000	-	1.00	1.05	-	昭和38	-	
法律学科	4	500	-	2,000	学士(法学)	1.00	1.05	-	昭和38	東京都渋谷区東四丁目10番28号	
経済学部	4	510	-	2,040	-	1.00	1.06	-	昭和41	-	
経済学科	4	255	-	1,020	学士(経済学)	0.97	1.08	-	昭和41	東京都渋谷区東四丁目10番28号	※令和2年度より入学定員増(210人⇒255人)。令和元年度届出済。
経済ネットワーク学科	4	-	-	-	学士(経済学)	-	-	-	平成8	同上	※令和2年度より学生募集停止(150人⇒0人)。令和元年度届出済。
経営学科	4	255	-	1,020	学士(経営学)	1.03	1.05	-	平成17	同上	※令和2年度より入学定員増(150人⇒255人)。令和元年度届出済。
神道文化学部	4	180	-	720	-	1.10	1.12	-	平成14	-	
神道文化学科(昼間主)	4	120	-	480	学士(文学)	1.11	1.13	-	平成14	東京都渋谷区東四丁目10番28号	
神道文化学科(夜間主)	4	60	-	240	学士(文学)	1.07	1.10	-	平成14	同上	
人間開発学部	4	330	-	1,320	-	1.03	1.02	-	平成21	-	
初等教育学科	4	100	-	400	学士(教育学)	1.04	1.04	-	平成21	神奈川県横浜市青葉区新石川三丁目22番地1	
健康体育学科	4	130	-	520	学士(体育学)	1.04	1.03	-	平成21	同上	
子ども支援学科	4	100	-	400	学士(教育学)	1.01	1.01	-	平成25	同上	
観光まちづくり学部	4	300	-	300	-	1.00	1.00	-	令和4	-	
観光まちづくり学科	4	300	-	300	学士(観光まちづくり)	1.00	1.00	-	令和4	神奈川県横浜市青葉区新石川三丁目22番地1	
大学全体	-	2505	-	9,120	-	-	-	-	-	-	

大学の名称	國學院大學 大学院					学生募集停止学科数	0	平均入学定員超過率1.3倍以上の学科数	1	備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	令和4年度入学定員超過率	定員変更年度(AC期間の学科のみ)	開設年度	所在地
	年	人	年次人	人		倍	倍	年度	年度	年度
文学研究科（前期）	2	90	-	180	-	0.66	0.62	-	昭和27	-
神道学・宗教学専攻	2	20	-	40	修士 (神道学・宗教学)	0.50	0.40	-	昭和27	東京都渋谷区東四丁目10番28号
文学専攻	2	30	-	60	修士 (文学・民俗学)	0.91	0.80	-	昭和27	同上
史学専攻	2	40	-	80	修士 (歴史学)	0.56	0.60	-	昭和27	同上
法学研究科（前期）	2	10	-	20	-	0.65	0.70	-	昭和42	-
法学専攻	2	10	-	20	修士 (法学)	0.65	0.70	-	昭和42	東京都渋谷区東四丁目10番28号
経済学研究科（前期）	2	10	-	20	-	0.80	1.20	-	昭和43	-
経済学専攻	2	10	-	20	修士 (経済学)	0.80	1.20	-	昭和43	東京都渋谷区東四丁目10番28号
文学研究科（後期）	3	24	-	72	-	0.89	0.87	-	昭和28	-
神道学・宗教学専攻	3	4	-	12	博士 (神道学・宗教学)	1.41	1.75	-	昭和33	東京都渋谷区東四丁目10番28号
文学専攻	3	10	-	30	博士 (文学・民俗学)	0.90	0.60	-	昭和28	同上
史学専攻	3	10	-	30	博士 (歴史学)	0.70	0.80	-	昭和28	同上
法学研究科（後期）	3	5	-	15	-	0.00	0.00	-	昭和42	-
法学専攻	3	5	-	15	博士 (法学)	0.00	0.00	-	昭和42	東京都渋谷区東四丁目10番28号
経済学研究科（後期）	3	5	-	15	-	0.06	0.00	-	昭和45	-
経済学専攻	3	5	-	15	博士 (経済学)	0.06	0.00	-	昭和45	東京都渋谷区東四丁目10番28号
大学院全体	-	144	-	322	-	-	-	-	-	-

大学の名称	國學院大學北海道短期大学部					学生募集停止学科数	0	平均入学定員超過率1.3倍以上の学科数	0	備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	令和4年度入学定員超過率	定員変更年度(AC期間の学科のみ)	開設年度	所在地
	年	人	年次人	人		倍	倍			
国文学科	2	85	-	170	短期大学士(国文学)	0.84	0.87	-	昭和57	北海道滝川市文京町三丁目1番1号
総合教養学科	2	85	-	170	短期大学士(総合教養)	1.00	1.04	-	昭和57	同上
幼児・児童教育学科	2	55	-	110	短期大学士(幼児・児童教育学)	0.80	0.76	-	昭和57	同上
短期大学全体	-	225	-	450	-	-	-	-	-	-

- (注) ・本調査の対象となっている大学等の設置者が既に設置している全ての大学、大学院、短期大学及び高等専門学校についてそれぞれの学校ごとに、報告年度の5月1日現在の状況を記入してください(専攻科及び別科を除く)。
- ・学部・学科または研究科の専攻等、「入学定員を定めている組織」ごとに全ての組織を記入してください。
※「入学定員を定めている組織」ごとには、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めず。履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
 - ・本年度AC対象となる学部等については、必ず下線を引いてください。
 - ・「平均入学定員超過率」には、報告年度(令和4年度)から起算した修業年限に相当する期間の入学定員超過率の平均を記載してください。
 - ・「備考」の欄については、学年進行中の入学定員の増減や学生募集停止など、収容定員に影響のある情報を記入してください。

5 教員組織の状況

<観光まちづくり学部 観光まちづくり学科>

(1) ① 担当教員表

【認可時又は届出時】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授 (学部長)	西村 幸夫 (69) (高) <令和4年4月> 工学博士
		まちづくりと観光※ 導入ゼミナール 観光まちづくり演習Ⅱ (地域分析) 観光まちづくり演習Ⅲ (構想・提案) 専門ゼミナール 卒業研究
専	教授	浅野 聡 (57) <令和4年4月> 博士(工学)
		導入ゼミナール 観光まちづくり演習Ⅱ (地域分析) 観光まちづくり演習Ⅲ (構想・提案) 専門ゼミナール 卒業研究 基礎ゼミナールB 都市建築史 地域防災論
専	教授	井門 隆夫 (60) <令和4年4月> 文学士
		導入ゼミナール 観光まちづくり演習Ⅱ (地域分析) 観光まちづくり演習Ⅲ (構想・提案) 専門ゼミナール 卒業研究 基礎ゼミナールB 観光マーケティング 宿泊産業論
専	教授	石本 東生 (60) <令和4年4月> Ph. D. (ギリシャ共和国)
		導入ゼミナール 観光まちづくり演習Ⅱ (地域分析) 観光まちづくり演習Ⅲ (構想・提案) 専門ゼミナール 卒業研究 基礎ゼミナールA 観光社会学 世界の観光政策
専	教授	梅川 智也 (64) <令和4年4月> 社会工学士
		観光まちづくり演習Ⅱ (地域分析) 観光まちづくり演習Ⅲ (構想・提案) 専門ゼミナール 卒業研究 基礎ゼミナールA 観光政策・計画論※ 観光地経営論※
専	教授	楓 (高橋) 千里 (66) <令和4年4月> 政治学士
		導入ゼミナール 基礎ゼミナールA 基礎ゼミナールB 地域の観光情報メディア 観光まちづくりインターンシップ
専	教授	小林 裕和 (55) <令和4年4月> 理学士※
		導入ゼミナール 観光まちづくり演習Ⅱ (地域分析) 観光まちづくり演習Ⅲ (構想・提案) 専門ゼミナール 卒業研究 基礎ゼミナールB 観光事業論 旅行産業論
専	教授	小林 稔 (62) <令和4年4月> 文学修士
		導入ゼミナール 観光まちづくり演習Ⅱ (地域分析) 専門ゼミナール 卒業研究 基礎ゼミナールA 基礎ゼミナールB 地域資源論※ 民俗学概論 地域文化創造論 文化行政・文化財行政概論※

【令和4年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授 (学部長)	西村 幸夫 (70) <令和4年4月> 工学博士
		まちづくりと観光※ 導入ゼミナール 観光まちづくり演習Ⅱ (地域分析) 観光まちづくり演習Ⅲ (構想・提案) 専門ゼミナール 卒業研究
専	教授	浅野 聡 (58) <令和4年4月> 博士(工学)
		導入ゼミナール 観光まちづくり演習Ⅱ (地域分析) 観光まちづくり演習Ⅲ (構想・提案) 専門ゼミナール 卒業研究 基礎ゼミナールB 都市建築史 地域防災論
専	教授	井門 隆夫 (60) <令和4年4月> 文学士
		導入ゼミナール 観光まちづくり演習Ⅱ (地域分析) 観光まちづくり演習Ⅲ (構想・提案) 専門ゼミナール 卒業研究 基礎ゼミナールB 観光マーケティング 宿泊産業論
専	教授	石本 東生 (60) <令和4年4月> Ph. D. (ギリシャ共和国)
		導入ゼミナール 観光まちづくり演習Ⅱ (地域分析) 観光まちづくり演習Ⅲ (構想・提案) 専門ゼミナール 卒業研究 基礎ゼミナールA 観光社会学 世界の観光政策
専	教授	梅川 智也 (64) <令和4年4月> 社会工学士
		観光まちづくり演習Ⅱ (地域分析) 観光まちづくり演習Ⅲ (構想・提案) 専門ゼミナール 卒業研究 基礎ゼミナールA 観光政策・計画論※ 観光地経営論※
専	教授	楓 (高橋) 千里 (66) <令和4年4月> 政治学士
		導入ゼミナール 基礎ゼミナールA 基礎ゼミナールB 地域の観光情報メディア 観光まちづくりインターンシップ
専	教授	小林 裕和 (55) <令和4年4月> 理学士※
		導入ゼミナール 観光まちづくり演習Ⅱ (地域分析) 観光まちづくり演習Ⅲ (構想・提案) 専門ゼミナール 卒業研究 基礎ゼミナールB 観光事業論 旅行産業論
専	教授	小林 稔 (62) <令和4年4月> 文学修士
		導入ゼミナール 観光まちづくり演習Ⅱ (地域分析) 専門ゼミナール 卒業研究 基礎ゼミナールA 基礎ゼミナールB 地域資源論※ 民俗学概論 地域文化創造論 文化行政・文化財行政概論※

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	権原 晶子 (58) <令和4年4月> 芸術学修士※
		導入ゼミナール 観光まちづくり演習Ⅱ(地域分析) 観光まちづくり演習Ⅲ(構想・提案) 専門ゼミナール 卒業研究 基礎ゼミナールB リノベーション論 アートと地域振興※
専	教授	塩谷 英生 (57) <令和4年4月> 博士(観光科学)
		統計分析の基礎 導入ゼミナール 観光まちづくり演習Ⅱ(地域分析) 観光まちづくり演習Ⅲ(構想・提案) 専門ゼミナール 卒業研究 基礎ゼミナールB 観光経済論
専	教授	下間 久美子 (54) <令和4年4月> 博士(工学)
		導入ゼミナール 観光まちづくり演習Ⅱ(地域分析) 観光まちづくり演習Ⅲ(構想・提案) 専門ゼミナール 卒業研究 基礎ゼミナールA 地域資源論※ 地域遺産論 文化行政・文化財行政概論※
専	教授	下村 彰男 (67)(高) <令和4年4月> 博士(農学)
		観光まちづくり演習Ⅰ(調査手法) 観光まちづくり演習Ⅱ(地域分析) 観光まちづくり演習Ⅲ(構想・提案) 専門ゼミナール 卒業研究 基礎ゼミナールB 地域資源論※ 保全生態学概論 ※ 風景計画論
専	教授	十代田 朗 (60) <令和4年4月> 博士(工学)
		導入ゼミナール 観光まちづくり演習Ⅱ(地域分析) 観光まちづくり演習Ⅲ(構想・提案) 専門ゼミナール 卒業研究 基礎ゼミナールA 国土・都市計画論 観光地経営論※
専	教授	南雲 謙志 (65) <令和4年4月> 芸術学士
		パブリックデザイン(地域と公共空間) プロダクトデザイン(地域と杉) 専門ゼミナール 卒業研究 基礎ゼミナールA 基礎ゼミナールB
専	教授	堀木 美告 (52) <令和4年4月> 修士(農学生命科学)
		導入ゼミナール 観光まちづくり演習Ⅱ(地域分析) 観光まちづくり演習Ⅲ(構想・提案) 専門ゼミナール 卒業研究 基礎ゼミナールA 保全生態学概論 ※ 観光学概論 観光政策・計画論※
専	教授	吉見 俊哉 (65) <令和5年4月> 社会学修士
		観光まちづくり演習Ⅱ(地域分析) 観光まちづくり演習Ⅲ(構想・提案) 専門ゼミナール 卒業研究 基礎ゼミナールB グローバルセッション論 都市とメディアの社会学

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	権原 晶子 (58) <令和4年4月> 芸術学修士※
		導入ゼミナール 観光まちづくり演習Ⅱ(地域分析) 観光まちづくり演習Ⅲ(構想・提案) 専門ゼミナール 卒業研究 基礎ゼミナールB リノベーション論 アートと地域振興※
専	教授	塩谷 英生 (57) <令和4年4月> 博士(観光科学)
		統計分析の基礎 導入ゼミナール 観光まちづくり演習Ⅱ(地域分析) 観光まちづくり演習Ⅲ(構想・提案) 専門ゼミナール 卒業研究 基礎ゼミナールB 観光経済論
専	教授	下間 久美子 (54) <令和4年4月> 博士(工学)
		導入ゼミナール 観光まちづくり演習Ⅱ(地域分析) 観光まちづくり演習Ⅲ(構想・提案) 専門ゼミナール 卒業研究 基礎ゼミナールA 地域資源論※ 地域遺産論 文化行政・文化財行政概論※
専	教授	下村 彰男 (67) <令和4年4月> 博士(農学)
		観光まちづくり演習Ⅰ(調査手法) 観光まちづくり演習Ⅱ(地域分析) 観光まちづくり演習Ⅲ(構想・提案) 専門ゼミナール 卒業研究 基礎ゼミナールB 地域資源論※ 保全生態学概論 ※ 風景計画論
専	教授	十代田 朗 (60) <令和4年4月> 博士(工学)
		導入ゼミナール 観光まちづくり演習Ⅱ(地域分析) 観光まちづくり演習Ⅲ(構想・提案) 専門ゼミナール 卒業研究 基礎ゼミナールA 国土・都市計画論 観光地経営論※
専	教授	南雲 謙志 (65) <令和4年4月> 芸術学士
		パブリックデザイン(地域と公共空間) プロダクトデザイン(地域と杉) 専門ゼミナール 卒業研究 基礎ゼミナールA 基礎ゼミナールB
専	教授	堀木 美告 (53) <令和4年4月> 修士(農学生命科学)
		導入ゼミナール 観光まちづくり演習Ⅱ(地域分析) 観光まちづくり演習Ⅲ(構想・提案) 専門ゼミナール 卒業研究 基礎ゼミナールA 保全生態学概論 ※ 観光学概論 観光政策・計画論※
専	教授	吉見 俊哉 (65) <令和5年4月> 社会学修士
		観光まちづくり演習Ⅱ(地域分析) 観光まちづくり演習Ⅲ(構想・提案) 専門ゼミナール 卒業研究 基礎ゼミナールB グローバルセッション論 都市とメディアの社会学

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	米田 誠司 (58) <令和4年4月> 博士(公共政策学)
		導入ゼミナール 観光まちづくり演習Ⅱ(地域分析) 観光まちづくり演習Ⅲ(構想・提案) 専門ゼミナール 卒業研究 基礎ゼミナールB 公共政策概論 観光食マネジメント論
専	准教授	石垣 悟 (47) <令和4年4月> 修士(文学)
		導入ゼミナール 専門ゼミナール 卒業研究 基礎ゼミナールA 基礎ゼミナールB 博物館概論 博物館資料論 博物館実習A 博物館実習B
専	准教授	石山(佐藤) 千代 (44) <令和4年4月> 博士(工学)
		まちづくりと観光※ 観光まちづくり演習Ⅰ(調査手法) 観光まちづくり演習Ⅱ(地域分析) 観光まちづくり演習Ⅲ(構想・提案) 専門ゼミナール 卒業研究 基礎ゼミナールA 地域デザイン論
専	准教授	峯 和雄 (49) <令和4年4月> 修士(工学)※
		導入ゼミナール 観光まちづくり演習Ⅱ(地域分析) 観光まちづくり演習Ⅲ(構想・提案) 専門ゼミナール 卒業研究 基礎ゼミナールA 田園回帰論 観光まちづくりインターンシップ
専	准教授	金 今善 (51) <令和4年4月> 博士(政治学)
		導入ゼミナール 観光まちづくり演習Ⅱ(地域分析) 観光まちづくり演習Ⅲ(構想・提案) 専門ゼミナール 卒業研究 基礎ゼミナールA 地方自治概論 住民参加と合意形成
専	准教授	清野 隆 (43) <令和4年4月> 博士(工学)
		観光まちづくり演習Ⅰ(調査手法) 観光まちづくり演習Ⅱ(地域分析) 観光まちづくり演習Ⅲ(構想・提案) 専門ゼミナール 卒業研究 基礎ゼミナールB まちづくり論 観光まちづくりインターンシップ
専	准教授	大門 創 (41) <令和4年4月> 博士(工学)
		観光まちづくり演習Ⅰ(調査手法) 観光まちづくり演習Ⅱ(地域分析) 観光まちづくり演習Ⅲ(構想・提案) 専門ゼミナール 卒業研究 基礎ゼミナールA 都市と地域の交通 交通計画
専	准教授	河 貝珍 (39) <令和4年4月> 博士(学際情報学)
		社会学概論※ 導入ゼミナール 観光まちづくり演習Ⅱ(地域分析) 観光まちづくり演習Ⅲ(構想・提案) 専門ゼミナール 卒業研究 基礎ゼミナールA コミュニケーション論

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	米田 誠司 (58) <令和4年4月> 博士(公共政策学)
		導入ゼミナール 観光まちづくり演習Ⅱ(地域分析) 観光まちづくり演習Ⅲ(構想・提案) 専門ゼミナール 卒業研究 基礎ゼミナールB 公共政策概論 観光食マネジメント論
専	准教授	石垣 悟 (47) <令和4年4月> 修士(文学)
		導入ゼミナール 専門ゼミナール 卒業研究 基礎ゼミナールA 基礎ゼミナールB 博物館概論 博物館資料論 博物館実習A 博物館実習B
専	准教授	石山(佐藤) 千代 (44) <令和4年4月> 博士(工学)
		まちづくりと観光※ 観光まちづくり演習Ⅰ(調査手法) 観光まちづくり演習Ⅱ(地域分析) 観光まちづくり演習Ⅲ(構想・提案) 専門ゼミナール 卒業研究 基礎ゼミナールA 地域デザイン論
専	准教授	峯 和雄 (49) <令和4年4月> 修士(工学)※
		導入ゼミナール 観光まちづくり演習Ⅱ(地域分析) 観光まちづくり演習Ⅲ(構想・提案) 専門ゼミナール 卒業研究 基礎ゼミナールA 田園回帰論 観光まちづくりインターンシップ
専	准教授	金 今善 (51) <令和4年4月> 博士(政治学)
		導入ゼミナール 観光まちづくり演習Ⅱ(地域分析) 観光まちづくり演習Ⅲ(構想・提案) 専門ゼミナール 卒業研究 基礎ゼミナールA 地方自治概論 住民参加と合意形成
専	准教授	清野 隆 (43) <令和4年4月> 博士(工学)
		観光まちづくり演習Ⅰ(調査手法) 観光まちづくり演習Ⅱ(地域分析) 観光まちづくり演習Ⅲ(構想・提案) 専門ゼミナール 卒業研究 基礎ゼミナールB まちづくり論 観光まちづくりインターンシップ
専	准教授	大門 創 (41) <令和4年4月> 博士(工学)
		観光まちづくり演習Ⅰ(調査手法) 観光まちづくり演習Ⅱ(地域分析) 観光まちづくり演習Ⅲ(構想・提案) 専門ゼミナール 卒業研究 基礎ゼミナールA 都市と地域の交通 交通計画
専	准教授	河 貝珍 (40) <令和4年4月> 博士(学際情報学)
		社会学概論※ 導入ゼミナール 観光まちづくり演習Ⅱ(地域分析) 観光まちづくり演習Ⅲ(構想・提案) 専門ゼミナール 卒業研究 基礎ゼミナールA コミュニケーション論

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	准教授	藤岡 麻理子 (41) <令和4年4月> 博士(学術)
		導入ゼミナール 観光まちづくり演習Ⅱ(地域分析) 観光まちづくり演習Ⅲ(構想・提案) 専門ゼミナール 卒業研究 基礎ゼミナールA 基礎ゼミナールB 世界遺産論
専	准教授	松本 貴文 (40) <令和4年4月> 博士(学術)
		社会学概論※ 社会学法入門 導入ゼミナール 観光まちづくり演習Ⅱ(地域分析) 観光まちづくり演習Ⅲ(構想・提案) 専門ゼミナール 卒業研究 基礎ゼミナールA 地域と環境の社会学
専	講師	児玉(大澤) 千絵 (32) <令和4年4月> 博士(工学)
		地理空間情報分析 観光まちづくり演習Ⅰ(調査手法) 観光まちづくり演習Ⅱ(地域分析) 観光まちづくり演習Ⅲ(構想・提案) 専門ゼミナール 卒業研究 基礎ゼミナールA 基礎ゼミナールB
専	講師	仲野 晋一 (38) <令和4年4月> 修士(情報理工学)※
		プログラミングと数学基礎 データサイエンス 観光まちづくり演習Ⅰ(調査手法) 観光まちづくり演習Ⅱ(地域分析) 観光まちづくり演習Ⅲ(構想・提案) 専門ゼミナール 卒業研究 基礎ゼミナールB
専	講師	梶 憲亘 (41) <令和4年4月> 博士(工学)
		導入ゼミナール 観光まちづくり演習Ⅱ(地域分析) 観光まちづくり演習Ⅲ(構想・提案) 専門ゼミナール 卒業研究 基礎ゼミナールB 都市保全論 アートと地域振興※
専	助教	潘 夢斐 (34) <令和4年4月> 修士(学際情報学)※
		社会学概論※ 観光まちづくり演習Ⅱ(地域分析) 観光まちづくり演習Ⅲ(構想・提案) 専門ゼミナール 卒業研究 基礎ゼミナールA 文化社会学
兼任	教授	石井 研士 (67) <令和4年4月> 博士(宗教学)
		日本文化を知る(儀礼文化研究)
兼任	教授	岩瀬 由佳 (57) <令和4年4月> 博士(言語文化学)
		比較文化論Ⅰ
兼任	教授	植原 吉朗 (62) <令和4年4月> 博士(医学)
		日本文化を知る(武道の特性と国際化) スポーツ実技A
兼任	教授	尾近 裕幸 (58) <令和4年4月> 修士(経済学)
		経済理論入門 経済学史入門
兼任	教授	金杉 武司 (49) <令和4年4月> 博士(学術)
		哲学・倫理学

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	准教授	藤岡 麻理子 (41) <令和4年4月> 博士(学術)
		導入ゼミナール 観光まちづくり演習Ⅱ(地域分析) 観光まちづくり演習Ⅲ(構想・提案) 専門ゼミナール 卒業研究 基礎ゼミナールA 基礎ゼミナールB 世界遺産論
専	准教授	松本 貴文 (40) <令和4年4月> 博士(学術)
		社会学概論※ 社会学法入門 導入ゼミナール 観光まちづくり演習Ⅱ(地域分析) 観光まちづくり演習Ⅲ(構想・提案) 専門ゼミナール 卒業研究 基礎ゼミナールA 地域と環境の社会学
専	講師	児玉(大澤) 千絵 (32) <令和4年4月> 博士(工学)
		地理空間情報分析 観光まちづくり演習Ⅰ(調査手法) 観光まちづくり演習Ⅱ(地域分析) 観光まちづくり演習Ⅲ(構想・提案) 専門ゼミナール 卒業研究 基礎ゼミナールA 基礎ゼミナールB
専	講師	仲野 晋一 (38) <令和4年4月> 修士(情報理工学)※
		プログラミングと数学基礎 データサイエンス 観光まちづくり演習Ⅰ(調査手法) 観光まちづくり演習Ⅱ(地域分析) 観光まちづくり演習Ⅲ(構想・提案) 専門ゼミナール 卒業研究 基礎ゼミナールB
専	講師	梶 憲亘 (41) <令和4年4月> 博士(工学)
		導入ゼミナール 観光まちづくり演習Ⅱ(地域分析) 観光まちづくり演習Ⅲ(構想・提案) 専門ゼミナール 卒業研究 基礎ゼミナールB 都市保全論 アートと地域振興※
専	助教	潘 夢斐 (34) <令和4年4月> 博士(学際情報学)
		社会学概論※ 観光まちづくり演習Ⅱ(地域分析) 観光まちづくり演習Ⅲ(構想・提案) 専門ゼミナール 卒業研究 基礎ゼミナールA 文化社会学
兼任	教授	石井 研士 (67) <令和4年4月> 博士(宗教学)
		日本文化を知る(儀礼文化研究)
兼任	教授	岩瀬 由佳 (57) <令和5年4月> 博士(言語文化学)
		比較文化論Ⅰ
兼任	教授	植原 吉朗 (62) <令和4年4月> 博士(医学)
		日本文化を知る(武道の特性と国際化) スポーツ実技A
兼任	教授	尾近 裕幸 (58) <令和4年4月> 修士(経済学)
		経済理論入門 経済学史入門
兼任	教授	金杉 武司 (49) <令和4年4月> 博士(学術)
		哲学・倫理学

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任 教授		近藤 良彦 (59) <令和4年4月> 理学博士
		コンピュータと情報Ⅰ コンピュータと情報Ⅱ 宇宙物理学入門
兼任 教授		坂本 正徳 (57) <令和4年4月> 博士(理学)
		コンピュータと情報Ⅰ 情報科学入門
兼任 教授		中馬 祥子 (56) <令和6年4月> 社会学修士
		NPOと市民社会
兼任 教授		中泉 真樹 (64) <令和4年4月> 経済学士
		日本の経済 経済経営数学入門
兼任 教授		中曾根(市川) 玲子 (65) <令和4年4月> 法学修士
		法と社会参加(企業での活動と法)
兼任 教授		長又 高夫 (57) <令和4年4月> 博士(法学)
		日本文化を知る(日本文化の普遍性と固有性)
兼任 教授		林 貴一郎 (48) <令和4年4月> 博士(体育科学)
		スポーツ科学論
兼任 教授		福岡 英明 (62) <令和4年4月> 博士(法学)
		法学(日本国憲法)
兼任 准教授		伊藤 英之 (39) <令和4年4月> 修士(教育学)
		スポーツ実技B
兼任 准教授		稲垣 浩 (45) <令和5年4月> 博士(政治学)
		行財政概論
兼任 准教授		小濱 歩 (42) <令和4年4月> 博士(神道学)
		國學院の学び(國學院大学の歴史と未 来) 日本文化を知る(日本文化論と日本神話)
兼任 准教授		穴戸 節太郎 (52) <令和4年4月> 博士(文学)
		ドイツ語Ⅰ ドイツ語Ⅱ
兼任 准教授		千野 謙太郎 (44) <令和4年4月> 博士(学術)
		スポーツ実技B
兼任 准教授		備前 嘉文 (43) <令和4年4月> 博士(スポーツ科学)
		スポーツ実技A
兼任 講師		羅 芝賢 (37) <令和4年4月> 博士(法学)
		行政と市民生活(デジタル時代の行政と社会)
兼任 助教		大道(山中) 晴香 (36) <令和4年4月> 博士(宗教学)
		神道と文化 神社ネットワーク論Ⅰ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任 教授		近藤 良彦 (59) <令和4年4月> 理学博士
		コンピュータと情報Ⅰ コンピュータと情報Ⅱ 宇宙物理学入門
兼任 教授		坂本 正徳 (57) <令和4年4月> 博士(理学)
		コンピュータと情報Ⅰ 情報科学入門
兼任 教授		中馬 祥子 (54) <令和6年4月> 社会学修士
		NPOと市民社会
兼任 教授		中泉 真樹 (64) <令和4年4月> 経済学士
		日本の経済 経済経営数学入門
兼任 教授		長又 高夫 (57) <令和4年4月> 博士(法学)
		日本文化を知る(日本文化の普遍性と固有性)
兼任 教授		林 貴一郎 (48) <令和4年4月> 博士(体育科学)
		スポーツ科学論
兼任 教授		福岡 英明 (62) <令和4年4月> 博士(法学)
		法学(日本国憲法)
兼任 准教授		伊藤 英之 (39) <令和4年4月> 修士(教育学)
		スポーツ実技B
兼任 准教授		稲垣 浩 (44) <令和5年4月> 博士(政治学)
		行財政概論
兼任 准教授		小濱 歩 (42) <令和4年4月> 博士(神道学)
		國學院の学び(國學院大学の歴史と未 来) 日本文化を知る(日本文化論と日本神話)
兼任 准教授		穴戸 節太郎 (52) <令和4年4月> 博士(文学)
		ドイツ語Ⅰ ドイツ語Ⅱ
兼任 准教授		千野 謙太郎 (44) <令和4年4月> 博士(学術)
		スポーツ実技B
兼任 准教授		備前 嘉文 (43) <令和4年4月> 博士(スポーツ科学)
		スポーツ実技A
兼任 准教授		羅 芝賢 (37) <令和4年4月> 博士(法学)
		行政と市民生活(デジタル時代の行政と社会)
兼任 助教		大道(山中) 晴香 (36) <令和4年4月> 博士(宗教学)
		神道と文化 神社ネットワーク論Ⅰ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任 助教		柏木 亨介 (45) <令和4年4月> 博士(文学)
		神道と文化 神道と環境 I
兼任 講師		安倍 幸 (61) <令和6年4月> 博士(政治学)
		文化人類学
兼任 講師		荒木 臣紀 (54) <令和5年4月> 修士(芸術学)
		博物館資料保存論
兼任 講師		石原 久子 (57) <令和5年4月> 文学修士※
		英語Ⅲ 英語Ⅳ
兼任 講師		市村 真実 (41) <令和5年4月> 修士(文学)※
		博物館教育論
兼任 講師		大森 尚子 (57) <令和5年4月> 文学修士※
		英語Ⅲ 英語Ⅳ
兼任 講師		岡田 誠 (48) <令和4年4月> 博士(文学)
		基礎日本語
兼任 講師		岡部 友彦 (45) <令和5年4月> 修士(工学)※
		ソーシャル・イノベーション
兼任 講師		奥田 麻衣 (44) <令和4年4月> 博士(学術)
		地球環境と人間
兼任 講師		小野 雅子 (60) <令和4年4月> 文学修士
		英語Ⅰ 英語Ⅱ
兼任 講師		片山 美由紀 (58) <令和5年4月> 人文学修士※
		観光心理学
兼任 講師		角屋 明彦 (65) <令和4年4月> 学術修士※
		中国語Ⅰ 中国語Ⅱ
兼任 講師		上網(菅野)久美子 (57) <令和5年4月> 芸術学修士
		観光まちづくり演習Ⅰ(調査手法)
兼任 講師		橘川 純子 (58) <令和4年4月> 文学修士
		政治と社会参加(社会を変えるNPO活動)
兼任 講師		木下 令子 (66) <令和4年4月> 文学士
		スペイン語Ⅰ スペイン語Ⅱ
兼任 講師		後藤 知美 (39) <令和6年4月> 博士(文学)
		博物館展示論
兼任 講師		後藤 靖子 (65) <令和5年4月> 法学士
		運輸・観光実践論
兼任 講師		小堀(佐々木)貴子 (54) <令和5年4月> 博士(農学)
		レクリエーション計画論

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任 助教		柏木 亨介 (45) <令和4年4月> 博士(文学)
		神道と文化 神道と環境 I
兼任 講師		安倍 幸 (59) <令和6年4月> 博士(政治学)
		文化人類学
兼任 講師		荒木 臣紀 (53) <令和5年4月> 修士(芸術学)
		博物館資料保存論
兼任 講師		石原 久子 (56) <令和5年4月> 文学修士※
		英語Ⅲ 英語Ⅳ
兼任 講師		市村 真実 (39) <令和5年4月> 修士(文学)※
		博物館教育論
兼任 講師		大森 尚子 (56) <令和5年4月> 文学修士※
		英語Ⅲ 英語Ⅳ
兼任 講師		岡田 誠 (48) <令和4年4月> 博士(文学)
		基礎日本語
兼任 講師		岡部 友彦 (44) <令和5年4月> 修士(工学)※
		ソーシャル・イノベーション
兼任 講師		奥田 麻衣 (44) <令和4年4月> 博士(学術)
		地球環境と人間
兼任 講師		小野 雅子 (60) <令和4年4月> 文学修士
		英語Ⅰ 英語Ⅱ
兼任 講師		片山 美由紀 (57) <令和5年4月> 人文学修士※
		観光心理学
兼任 講師		角屋 明彦 (65) <令和4年4月> 学術修士※
		中国語Ⅰ 中国語Ⅱ
兼任 講師		上網(菅野)久美子 (57) <令和5年4月> 芸術学修士
		観光まちづくり演習Ⅰ(調査手法)
兼任 講師		橘川 純子 (58) <令和4年4月> 文学修士
		政治と社会参加(社会を変えるNPO活動)
兼任 講師		木下 令子 (66) <令和4年4月> 文学士
		スペイン語Ⅰ スペイン語Ⅱ
兼任 講師		後藤 知美 (37) <令和6年4月> 博士(文学)
		博物館展示論
兼任 講師		後藤 靖子 (64) <令和5年4月> 法学士
		運輸・観光実践論
兼任 講師		小堀(佐々木)貴子 (54) <令和5年4月> 博士(農学)
		レクリエーション計画論

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任 講師		齋藤 弘崇 (41) <令和4年4月> 修士(文学)※
		フランス語Ⅰ フランス語Ⅱ
兼任 講師		佐藤 千明 (64) <令和4年4月> 文学修士
		フランス語Ⅰ フランス語Ⅱ
兼任 講師		佐野 敦子 (51) <令和5年4月> 博士(社会デザイン学)
		ジェンダーの社会学
兼任 講師		首藤(吉中) 理彩子 (48) <令和4年4月> 修士(英米言語学)
		英語Ⅰ 英語Ⅱ
兼任 講師		John Pak (65) <令和4年4月> Master of Arts(米園)
		英語Ⅰ 英語Ⅱ
兼任 講師		杉本 興運 (35) <令和4年4月> 博士(観光科学)
		地理学概論
兼任 講師		園司 直也 (47) <令和5年4月> 博士(農学)
		農山漁村論
兼任 講師		鈴木 卓治 (58) <令和6年4月> 博士(学術)
		博物館情報・メディア論
兼任 講師		高久 健二 (54) <令和4年4月> 文学博士(韓国)
		コリア語Ⅰ コリア語Ⅱ
兼任 講師		高橋 佳江 (62) <令和5年4月> 文学修士
		英語Ⅲ 英語Ⅳ
兼任 講師		高松 正人 (63) <令和6年4月> 教育学士
		観光危機管理論
兼任 講師		田中 ゆり (55) <令和5年4月> 修士(文学)※ Master of Arts(ドイツ)
		英語Ⅲ 英語Ⅳ
兼任 講師		丹治 朋子 (53) <令和5年4月> 修士(社会学)※
		ホスピタリティ・マネジメント論
兼任 講師		丹野(江部) 春香 (36) <令和5年4月> 修士(教育学)
		生涯学習概論
兼任 講師		塚原 紳二 (59) <令和6年4月> 博士(工学) Ph. D.(オランダ)
		コミュニティ論
兼任 講師		津山 拓也 (59) <令和4年4月> 文学修士
		ドイツ語Ⅰ ドイツ語Ⅱ
兼任 講師		戸井 久 (53) <令和4年4月> 博士(中国学)
		中国語Ⅰ 中国語Ⅱ
兼任 講師		土手 昭伸 (49) <令和4年4月> 博士(理学)
		科学的思考法

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任 講師		齋藤 弘崇 (41) <令和4年4月> 修士(文学)※
		フランス語Ⅰ フランス語Ⅱ
兼任 講師		佐藤 千明 (64) <令和4年4月> 文学修士
		フランス語Ⅰ フランス語Ⅱ
兼任 講師		佐野 敦子 (50) <令和5年4月> 博士(社会デザイン学)
		ジェンダーの社会学
兼任 講師		首藤(吉中) 理彩子 (48) <令和4年4月> 修士(英米言語学)
		英語Ⅰ 英語Ⅱ
兼任 講師		John Pak (65) <令和4年4月> Master of Arts(米園)
		英語Ⅰ 英語Ⅱ
兼任 講師		杉本 興運 (35) <令和4年4月> 博士(観光科学)
		地理学概論
兼任 講師		園司 直也 (46) <令和5年4月> 博士(農学)
		農山漁村論
兼任 講師		鈴木 卓治 (56) <令和6年4月> 博士(学術)
		博物館情報・メディア論
兼任 講師		高久 健二 (54) <令和4年4月> 文学博士(韓国)
		コリア語Ⅰ コリア語Ⅱ
兼任 講師		高橋 佳江 (61) <令和5年4月> 文学修士
		英語Ⅲ 英語Ⅳ
兼任 講師		高松 正人 (63) <令和6年4月> 教育学士
		観光危機管理論
兼任 講師		田中 ゆり (54) <令和5年4月> 修士(文学)※ Master of Arts(ドイツ)
		英語Ⅲ 英語Ⅳ
兼任 講師		丹治 朋子 (52) <令和5年4月> 修士(社会学)※
		ホスピタリティ・マネジメント論
兼任 講師		丹野(江部) 春香 (35) <令和5年4月> 修士(教育学)
		生涯学習概論
兼任 講師		塚原 紳二 (57) <令和6年4月> 博士(工学) Ph. D.(オランダ)
		コミュニティ論
兼任 講師		津山 拓也 (59) <令和4年4月> 文学修士
		ドイツ語Ⅰ ドイツ語Ⅱ
兼任 講師		戸井 久 (53) <令和4年4月> 博士(中国学)
		中国語Ⅰ 中国語Ⅱ
兼任 講師		土手 昭伸 (49) <令和4年4月> 博士(理学)
		科学的思考法

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名			担当授業科目名
兼任	講師	中村 大 (56) <令和6年4月> 修士(歴史学)	兼任	講師	中村 大 (54) <令和5年4月> 修士(歴史学)
		多変量解析			多変量解析
兼任	講師	橋本 俊哉 (60) <令和5年4月> 博士(工学)	兼任	講師	橋本 俊哉 (59) <令和5年4月> 博士(工学)
		観光行動論			観光行動論
			兼任	講師	花田 弘介 (37) <令和4年4月> 法曹博士(専門職)
					法と社会参加(企業での活動と法)
兼任	講師	原 功 (47) <令和5年4月> 修士(言語学)※	兼任	講師	原 功 (46) <令和5年4月> 修士(言語学)※
		英語Ⅲ 英語Ⅳ			英語Ⅲ 英語Ⅳ
兼任	講師	半田 昌之 (69) <令和6年4月> 法学士	兼任	講師	半田 昌之 (67) <令和6年4月> 法学士
		博物館経営論			博物館経営論
兼任	講師	深谷 信介 (59) <令和5年4月> 修士(工学)	兼任	講師	深谷 信介 (58) <令和5年4月> 修士(工学)
		地域ブランディング論			地域ブランディング論
兼任	講師	福井 一喜 (34) <令和4年4月> 博士(理学)	兼任	講師	福井 一喜 (34) <令和5年4月> 博士(工学)
		地域と都市の経済			地域と都市の経済
兼任	講師	寶善 みどり (63) <令和4年4月> 文学修士	兼任	講師	寶善 みどり (63) <令和4年4月> 文学修士
		英語Ⅰ 英語Ⅱ			英語Ⅰ 英語Ⅱ
兼任	講師	本間 由香利 (56) <令和4年4月> 修士(言語学)※	兼任	講師	本間 由香利 (56) <令和4年4月> 修士(言語学)※
		中国語Ⅰ 中国語Ⅱ			中国語Ⅰ 中国語Ⅱ
兼任	講師	牧野 修也 (65) <令和5年4月> 博士(社会学)	兼任	講師	牧野 修也 (54) <令和5年4月> 博士(社会学)
		質的調査法			質的調査法
兼任	講師	増山 榮一 (68) <令和4年4月> Ph. D. Anthropology (米国)	兼任	講師	増山 榮一 (68) <令和4年4月> Ph. D. Anthropology (米国)
		英語Ⅰ 英語Ⅱ			英語Ⅰ 英語Ⅱ
兼任	講師	水野(板垣)由香里 (47) <令和4年4月> 博士(経営学)	兼任	講師	水野(板垣)由香里 (47) <令和4年4月> 博士(経営学)
		経営学概論			経営学概論
兼任	講師	吉本 光宏 (65) <令和6年4月> 工学修士	兼任	講師	吉本 光宏 (63) <令和6年4月> 工学修士
		文化芸術政策論			文化芸術政策論
兼任	講師	リム・ベクチェン (51) <令和5年4月> 博士(学術)	兼任	講師	リム・ベクチェン (50) <令和5年4月> 博士(学術)
		Japan Studies			Japan Studies
兼任	講師	渡邊 綱男 (68) <令和6年4月> 博士(農学)	兼任	講師	渡邊 綱男 (66) <令和6年4月> 博士(農学)
		自然/環境保護行政概論			自然/環境保護行政概論
兼任	講師	和良地 克茂 (68) <令和6年4月> 修士(工学)	兼任	講師	和良地 克茂 (68) <令和6年4月> 修士(工学)
		不動産投資論			不動産投資論

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください)。
・ 認可申請書又は設置届出書の様式第3号(その2の1)に準じて作成してください。
・ 『認可時又は届出時』には 設置認可時又は届出時の教員全て(兼任、兼任教員を含む。)を黒字で記入してください。
その上で、**認可時又は届出時から変更となっている箇所は赤字としてください。**
・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る届出書類作成の手引き」の「教員名簿」を確認してください。
・ 年齢は、**それぞれの年度の5月1日時点の満年齢**を記入してください。
・ 専任(専門職大学等は専、実専、実(研)、実(実))、兼任、兼任の順に記入してください。
・ 不要な年度(令和2年度開設であれば令和元年度)の表は適宜削除し、詰めてください。

(1) ②担当教員表に関する変更内容

【令和元年度】

--

【令和2年度】

--

【令和3年度】

--

【令和4年度】

<ul style="list-style-type: none">・専任の潘芽斐助教が、学位「博士(学際情報学)」を取得。 取得年月日：令和3年6月11日 授与機関名：東京大学大学院学際情報学府 学位記番号：博士学情第168号 論文名：Locating and Localizing the Art Networks: A Sociological Examination of the Roles of Place in Art Networks in Ueno, Tokyo in the Meiji Period (アートネットワークと場所 一明治期東京上野におけるアートネットワークに関する社会学的研究)・兼任の稲垣浩の職位について、令和4年度に准教授から教授に昇格。・兼任の羅芝賢の職位について、令和4年度に専任講師から准教授に昇格。・兼任の中曽根玲子教授が派遣研究期間(国内)にあたるため、「法と社会参加(企業での活動と法)」については、花田弘介兼任講師に担当教員変更。・授業科目「比較文化論Ⅰ」の開講年度の変更により、兼任の岩瀬由佳教授の就任年月を令和4年4月から令和5年4月に変更。・授業科目「地域と都市の経済」の開講年度の変更により、兼任の福井一喜講師の就任年月を令和4年4月から令和5年4月に変更。

- (注) ・ 変更内容を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ **認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合は**、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査(AC教員審査)を受けてください。**AC教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。**
 - ・ 「専任教員採用等変更書(AC)」を提出し「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」と記入してください。
- なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「教員審査省略」と記入してください。
- ・ 不要な年度(令和2年度開設であれば令和元年度)の表は削除せず、斜線を入れてください。

(2) 専任教員数等

(2) - ① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における 設置基準上の必要専 任教員数	うち、完成年度時に おける設置基準上の 必要教授数
17	9
名	名

(注) ・ 大学設置基準第十三条別表第一、短期大学設置基準第二十二条別表第一イにより算出される専任教員数を記入してください。

(2) - ② 専任教員等数【大学】

設置時の計画						現在（報告時）の状況					
教授	准教授	講師	助教	計 (A)	助手 (A')	教授	准教授	講師	助教	計 (B)	助手 (B')
17	9	3	1	30	6	16	9	3	1	29	3
(16)	(9)	(3)	(1)	(29)	(3)						
現在（報告時）の完成年度時の状況						現在（報告時）の完成年度時の計画					
教授	准教授	講師	助教	計 (C)	助手 (C')	教授	准教授	講師	助教	計 (D)	助手 (D')
17	9	3	1	30	6	17	9	3	1	30	6
[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]

(注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、() 内に開設時の状況を記入してください。

・ 「現在（報告時）の状況」には、報告年度の5月1日の教員数（実人数）を記入してください。

・ 「現在（報告時）の完成年度時の状況」には、認可で設置された学部等の場合は、「現在（報告時）の状況」に記入した数字に、教員審査を受審済みであり、完成年度までに就任する教員数を加えた数を、届出で設置された学部等の場合は、「現在（報告時）の状況」に記入した数字に、完成年度までに就任することが決定している教員数を加えた数を記入するとともに、

[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：△1）

・ 「現在（報告時）の完成年度時の計画」には、予定されている完成年度時の人数を記入するとともに、

[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：△1）

(2) - ③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める 定年年齢（歳）	報告時（上記 (B)）の教員の うち、定年を延長 して採用している 教員数	完成年度時（上記 (C)）の教員 うち、定年を延長し て採用する教員数
70	0	2
歳	名	名

(注) ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢（特例等による定年年齢ではありません）、及び、報告年度の5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数及び完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。

・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二段書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。

(2) - ④ 設置時の計画に対する教員充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況(C)}}{\text{設置時の計画(A)}} = \frac{30}{30} = \boxed{100} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) - ⑤ 現在（報告時）の状況における定年を延長している教員構成率

$$\frac{\text{報告時の教員のうち、定年を延長して採用している教員数}}{\text{現在（報告時）の状況(B)}} = \frac{0}{29} = \boxed{0} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) - ⑥ 設置時の計画に対する助手充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況(C')}}{\text{設置時の計画(A')}} = \frac{6}{6} = \boxed{100} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) 専任教員辞任等の理由

(3) - ① 専任教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由			
合計 (D)				後任補充状況の集計 (E)						
就任を辞退した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)		
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ 認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての専任教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。
- ・ 「就任辞退（未就任）」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことです。就任した後に辞任した教員は、以下「(3) - ② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。
 - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに専任教員が新たに就任を辞退した場合、赤字にて記入するとともに、「就任辞退（未就任）」の理由に就任辞退の理由等及び（ ）書きで報告年度を記入してください。
 - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

<ul style="list-style-type: none"> ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由			
合計 (F)				後任補充状況の集計 (G)						
辞任した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)		
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ 一度就任した後に、定年による退職以外の理由で辞任した全ての専任教員について記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び（ ）書きで報告年度を記入してください。
 - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

<ul style="list-style-type: none"> ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ③ 上記 (3) - ① ・ (3) - ② の合計

合計 (D) + (F)				後任補充状況の集計 (E) + (G)						
辞任等した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)		
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

(3) - ④ 設置時の計画に対する教員辞任率

$$\frac{(3) - ③ \text{合計}(D)+(F)}{(2) - ② \text{設置時の計画}(A)} = \frac{0}{30} = 0 \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) - ⑤ 令和3年度報告書から、新たに辞任等した専任教員等の状況

0 人

(注) ・ (3) - ①、(3) - ②で赤字で記載した専任教員数の合計数を記載してください。

(3) -⑥ 定年により退職した専任教員に対する後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由			
合計				後任補充状況の集計					
辞任した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)	
0	人	必修	: 0 科目	必修	: 0 科目	必修	: 0 科目	必修	: 0 科目
		選択	: 0 科目	選択	: 0 科目	選択	: 0 科目	選択	: 0 科目
		自由	: 0 科目	自由	: 0 科目	自由	: 0 科目	自由	: 0 科目
		計	: 0 科目	計	: 0 科目	計	: 0 科目	計	: 0 科目

- (注) ・ **定年により退職した全ての専任教員**について記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、**赤字**にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び()書きで報告年度を記入してください。
 - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

<ul style="list-style-type: none"> ・ 専任教員が担当する(している)場合は「①」 ・ 兼任兼担教員が担当する(している)場合は「②」 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

- (注) ・ 上記(3)の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

6 附帯事項等に対する履行状況等

区分	附帯事項等	履行状況	今後の実施計画	
認可時 (令和4年)	1. カリキュラム・ツリーにおいて、必修科目である「社会学概論」は展開科目の「基礎Ⅰ類(社会)」のみに関連するように記載されているが、本科目は他の科目区分とも関連することから、当該ツリーを学生に示す際は、科目間の対応関係を明確にした上で、誤解が生じないように分かりやすく示すことが望ましい。	1年次生に対しては、カリキュラムツリーそのものを配布しても理解が進まないと考え、「助言」の内容をふまえたカリキュラムツリーをもとに作成した資料(別紙3)を用いて4月6日に学部ガイダンス(履修ガイダンス)を実施し、カリキュラムの体系性と各科目群の狙いを詳細に説明した上で、系統的な履修を心がけるよう促した。	履行済	次年度以降も新入生に対して同様のガイダンスを実施する。また、2年生以上の学生に対しては、別途履修ガイダンスを実施することで、観光まちづくり学部のカリキュラムに対する理解を深め、体系的な履修が行われることを担保する。
	2. 「観光まちづくり演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」について、学生60人程度に対して助手1名を配置する計画となっているが、配置される助手に過度な負担がかからないよう十分に配慮するとともに、必要に応じて追加で助手を配置することも含めて、適切な助手の配置計画に留意することが望ましい。	「観光まちづくり演習Ⅰ」は令和4年後期から開始されるため、右記の実施計画の通り、適切な助手の配置となるよう留意する。	履行中	「観光まちづくり演習Ⅰ」が令和4年後期から開始されるため、適宜、助手の負担状況にも目を配り、必要に応じてスチューデント・アシスタント制度も利用するなどして、助手に過度な負担がかからないよう配慮する。

(注) ・ 「認可時」には、認可時または届出時に付された附帯事項(学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る附帯事項を除く。)と、それに対する履行状況等について、具体的に記入してください。

- ・ 「設置計画履行状況調査結果」には、当該年度の調査の結果、**当該大学に付された指摘を**全て記入するとともに、付された指摘に対する履行状況等について、具体的に記入してください。その履行状況等の参考となる資料があれば、添付してください。
- ・ 「履行状況」では、履行中であれば「履行中」、履行が完了していれば「履行済」を選択してください。
- ・ 該当がない場合には、「附帯事項等」の部分に「該当なし」と記入してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査結果」には、当該調査の実施年度の年を記入してください。

7 その他全般的事項

<観光まちづくり学部 観光まちづくり学科>

(1) 設置計画変更事項等

設置時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど
<p>① 卒業要件単位数</p> <p>以下の単位修得条件を満たし、共通教育科目から26単位以上、専門教育科目から74単位以上を修得し、合計124単位以上を修得するものとする。</p> <p>【共通教育科目】（26単位以上）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「神道と文化」「英語Ⅰ」「英語Ⅱ」「英語Ⅲ」「英語Ⅳ」を必修科目とする。 ・「ドイツ語Ⅰ」「フランス語Ⅰ」「中国語Ⅰ」「韓国語Ⅰ」「スペイン語Ⅰ」から1科目2単位以上を選択必修とする。 ・「ドイツ語Ⅱ」「フランス語Ⅱ」「中国語Ⅱ」「韓国語Ⅱ」「スペイン語Ⅱ」から1科目2単位以上を選択必修とする。 <p>【専門教育科目】（74単位以上） ※内容省略</p> <p>② 施設・設備</p> <p>a 学部長室（20.90㎡）</p>	<p>① 卒業要件単位数において、共通教育科目のSTEM系科目群（「コンピュータと情報Ⅰ」「コンピュータと情報Ⅱ」「情報科学入門」「科学的思考法」「地球環境と人間」「宇宙物理学入門」）から1科目2単位以上を選択必修とすることを共通教育科目の単位修得条件に追加する。</p> <p>共通教育科目は、全学共通で人間力・社会人を育み学ぶために設けられた科目で、Science、Technology、Engineering及びMathematicsの頭文字を付したSTEM系科目群は、今後ますます技術革新が進むであろう社会にあって、エビデンスに基づいて適切な情報を選択し、既成の概念を論理的かつ批判的に検証し、又は革新的な提案をするために、文系、理系を問わずに必要な知識と能力を修得する科目群である。</p> <p>複数の学問分野の融合によって地域を理解し、地域の実情に即した課題解決型の教育を目指す観光まちづくり学部においては、複眼的にもものを見る力を養ううえでも、STEM系科目群は専門教育を補完し学修を深める重要な科目群となることから、単位修得条件に追加し変更する。</p> <p>変更後の卒業要件は以下のとおり。</p> <p>▼卒業要件</p> <p>以下の単位修得条件を満たし、共通教育科目から26単位以上、専門教育科目から74単位以上を修得し、合計124単位以上を修得するものとする。</p> <p>【共通教育科目】（26単位以上）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「神道と文化」「英語Ⅰ」「英語Ⅱ」「英語Ⅲ」「英語Ⅳ」を必修科目とする。 ・「ドイツ語Ⅰ」「フランス語Ⅰ」「中国語Ⅰ」「韓国語Ⅰ」「スペイン語Ⅰ」から1科目2単位以上を選択必修とする。 ・「ドイツ語Ⅱ」「フランス語Ⅱ」「中国語Ⅱ」「韓国語Ⅱ」「スペイン語Ⅱ」から1科目2単位以上を選択必修とする。 ・「<u>コンピュータと情報Ⅰ</u>」「<u>コンピュータと情報Ⅱ</u>」「<u>情報科学入門</u>」「<u>科学的思考法</u>」「<u>地球環境と人間</u>」「<u>宇宙物理学入門</u>」から1科目2単位以上を選択必修とする。 <p>【専門教育科目】（74単位以上） ※内容省略</p> <p>② 観光まちづくり学部の管理運営機能を強化するために学部長室（20.90㎡）を増設した。</p>

(注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

(2) 教員の資質の維持向上の方策（FD・SD活動含む）

① 実施体制

a 委員会の設置状況

- ・観光まちづくり学部 SD/FD委員会（予定）
- ・観光まちづくり学部ブラッシュアップ委員会（予定）

b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）

- 2022年6月 第1回 観光まちづくり学部SD/FD委員会開催（予定）
2023年3月 第1回 観光まちづくり学部ブラッシュアップ委員会開催（予定）

c 委員会の審議事項等

観光まちづくり学部 SD/FD委員会

- (1) 教員の教育能力向上のために行う研修・研究会等の計画と実施運営
- (2) 授業方法の改善・向上に関する情報の収集と提供
- (3) 教育施設・設備の改善に関する検討と提案
- (4) シラバスの点検及び改善策の立案
- (5) 教材の作成支援に関する検討と提案
- (6) 授業・教育状況に関する学生および教員への定期的アンケートの実施
- (7) 学生による授業評価の実施
- (8) 授業改善学生会議の設置と運営助成
- (9) 授業観察・検討会の企画および実施運営
- (10) FD活動に関する成果の発信と公開
- (11) FD活動に関する教育開発推進機構との連携

観光まちづくり学部ブラッシュアップ委員会

- (1) 教育内容・教育方法に関する定期的な点検と外部委員からの意見聴取
- (2) 教育方法の改善に関する方策の検討および立案
- (3) 教員の教育能力の維持向上のための検討および方策の立案
- (4) 外部機関との連携推進
- (5) 教育開発推進機構との連携
- (6) 観光まちづくり学部SD/FD委員会への助言

② 実施状況

a 実施内容

観光まちづくり学部SD/FD委員会及び観光まちづくり学部ブラッシュアップ委員会に先駆けて一部以下の取組を実施した。

- (1) 教員の相互理解の向上を目的とした研究会
- (2) 演習科目における教育の質向上を目的とした研究会
 - ・導入ゼミナール運営委員会
 - ・基礎ゼミナール運営委員会
 - ・観光まちづくり演習運営委員会 等
- (3) 地理情報システムや地域経済分析システム等の利活用に関するツール研修
- (4) 演習科目における調査対象地域に関する地域理解研修

b 実施方法

実施内容に応じて、講演会形式やグループワーク形式で実施

c 開催状況（教員の参加状況含む）

2021年度

- (1) 教員の相互理解の向上を目的とした研究会
 - ・全23回開催（いずれも教員20名参加）。
 - 別紙1「教員の相互理解の向上を目的とした研究会の実施状況について」参照。

2022年度

- (1) 教員の相互理解の向上を目的とした研究会
 - ・4/27に開催（教員29名参加）。5月以降も定期的に開催。
- (2) 演習科目における教育の質向上を目的とした研究会
 - ・4/8, 13, 20, 27に導入ゼミナール運営委員会を開催（いずれも教員29名参加）。5月以降も定期的に開催。
 - ・基礎ゼミナール運営委員会を2022年5月以降に定期的に開催予定
 - ・観光まちづくり演習運営委員会を2022年5月以降に定期的に開催予定

(3) 地理情報システムや地域経済分析システム等の利活用に関するツール研修

・ 2022年6、7月に開催予定

(4) 演習科目における調査対象地域に関する地域理解研修

・ 2022年10、11月に開催予定

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

各教員が実施内容を踏まえて、授業内容や授業運営に反映させている。

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

本学では、各学期末に授業評価アンケートを実施している。観光まちづくり学部においても、他学部同様、前期末、後期末に実施予定である。

b 教員や学生への公開状況、方法等

各授業のアンケート結果は、他学部同様、担当教員のみ学修支援システムK-SMAPY II上で閲覧可能である。結果に対する教員のリプライコメントは、他学部同様、全学生、全教員にK-SMAPY II上で公開予定である。

(注) ・ 「① a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。

「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。(記入例参照)

(3) 教育課程連携協議会に関する事項

※専門職大学、専門職短期大学、専門職学科、専門職大学院以外は「該当なし」と記入ください。

① 体制

a 委員会の設置状況

該当なし

b 委員会の開催状況（回数や開催日など）

該当なし

c 委員会の審議事項等

該当なし

d その他

該当なし

② 審議状況

a 審議した内容

該当なし

b 教育課程連携協議会が審議した内容を踏まえた大学での教育課程への見直し状況

該当なし

c 教育課程連携協議会が審議した内容を踏まえた大学での教育課程への反映状況

該当なし

(4) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

別紙2「観光まちづくり学部設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」参照。

② 自己点検・評価報告書

a 公表（予定）時期

・令和6年5月1日 公表（予定）

b 公表方法

・自己点検・評価報告書を刊行し専任教職員に配布する他、希望者に各1冊を配布
・大学ホームページ上に公開予定（令和6年5月末を予定）

③ 認証評価を受ける計画

（専門職大学、専門職短期大学、専門職大学院については、機関別認証評価と分野別認証評価それぞれの受審計画について記載してください。）

・令和4年に評価機関（大学基準協会）の評価を受ける

（注）・ 設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(5) 情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書（令和4年度）

a 公表予定の有無 [有 ・ 無]

≪ aで「有」の場合 ≫

b 公表（予定）時期 [調査結果公表後1ヶ月以内 ・ 公表後2～3ヶ月以内 ・ 公表後3ヶ月以降]

c 公表方法 [ウェブサイトへの掲載 ・ その他 ()]

≪ aで公表「無」の場合 ≫

d 公表しない理由 []

※設置計画が各大学等が社会に対して着実に実現していく構想を表したものであることに鑑み、

設置計画履行状況報告書については、各大学等のウェブサイト上に公表するなど、積極的な情報提供をお願いします。

教員の相互理解の向上を目的とした研究会の実施状況について

観光まちづくり学部の教育課程は、様々な分野に跨り、相互に連携することで、観光まちづくりの知識・技能を身につけた人材を養成することを目的としている。そこで、専任教員が各自の専門分野や観光まちづくりとの関係性について発表を行い、教員同士が相互の理解を深めることによって、学部全体の授業の質を向上し、教育効果を高めるため、「教員の相互理解の向上を目的とした研究会」を開催している（下表）。全ての研究会は、本学たまプラーザキャンパスで開催され、全専任教員が参加している。

2021 年度実施状況

	日時	発表者
第 1 回	2021 年 4 月 14 日(水)13:00-14:00	西村幸夫、下村彰男
第 2 回	2021 年 4 月 21 日(水)13:00-14:00	楓千里、梅川智也
第 3 回	2021 年 4 月 28 日(水)13:00-14:00	石垣悟、米田誠司
第 4 回	2021 年 5 月 12 日(水)13:00-14:00	児玉千絵、金今善
第 5 回	2021 年 5 月 26 日(水)13:00-14:00	石山千代、大門創
第 6 回	2021 年 6 月 23 日(水)13:00-14:00	南雲勝志、小林稔
第 7 回	2021 年 6 月 30 日(水)13:00-14:00	石本東生、堀木美告
第 8 回	2021 年 7 月 14 日(水)13:00-14:00	仲野潤一、椎原晶子
第 9 回	2021 年 7 月 21 日(水)13:00-13:30	嵩和雄
第 10 回	2021 年 7 月 28 日(水)13:00-14:00	清野隆
第 11 回	2021 年 9 月 15 日(水)13:00-14:00	小林稔
第 12 回	2021 年 9 月 22 日(水)13:00-14:00	西村幸夫
第 13 回	2021 年 10 月 13 日(水)13:00-14:00	梅川智也
第 14 回	2021 年 10 月 20 日(水)13:00-14:00	石本東生
第 15 回	2021 年 10 月 27 日(水)13:00-14:00	下村彰男
第 16 回	2021 年 11 月 10 日(水)13:00-14:00	金今善
第 17 回	2021 年 11 月 24 日(水)13:00-14:00	嵩和雄
第 18 回	2021 年 12 月 8 日(水)13:00-14:00	石垣悟、米田誠司
第 19 回	2021 年 12 月 15 日(水)13:00-14:00	清野隆、堀木美告
第 20 回	2021 年 12 月 22 日(水)13:00-14:00	藤岡麻里子、松本貴文
第 21 回	2022 年 1 月 26 日(水)13:00-14:00	椎原晶子、大門創
第 22 回	2022 年 2 月 9 日(水)13:00-14:00	仲野潤一、南雲勝志
第 23 回	2022 年 2 月 16 日(水)13:00-14:00	楓千里、石山千代

観光まちづくり学部設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

國學院大學観光まちづくり学部は、本学で蓄積されてきた日本と日本文化に関する学知を基盤に、「観光」を切り口としながら持続可能な地域を実現するための方法論を「観光まちづくり」という視点から開拓するとともに、その実践を担う人材を養成することを目的として令和4年4月に設置された。

学部の目的を達成するために、以下の取り組みを行った。

1. 入学者の確保

観光まちづくり学部特設サイト（令和4年3月31日まで運用。4月1日以降は、大学ホームページに移行）を立ち上げ、学部の理念・目的、カリキュラム、履修モデル、専任教員等の情報を公開した。また、本学専任職員によって編成している入学アドバイザーが、認可後に担当高校を訪問し、上記内容について説明を行った。入学試験は、「設置の趣旨等を記載した書類」に記載した通りの内容で実施し、入学定員300名に対して最終的に301名が入学した。

次年度以降も入学志願者及び入学者の確保に努めるとともに、適正な入学定員管理を行っていく。

2. 教員組織

学部開設時に着任予定の教員29名については、当初予定通り全員が着任した。令和5年に残りの1名の教員が着任すれば教員組織は計画通り完成することとなる。

3. 新入生オリエンテーション

新入生に対して、4月1日に「履修に関する説明会」を開催し、「大学について」「大学の授業の仕組み」「各学科時間割の作成」「時間割の登録」「授業への出席」等について説明を行った。4月6日には学部ガイダンスを実施し、専任教員が学部の目的や教育内容、履修モデル等に関する説明を行い、4月5日と11日には履修登録に悩みを抱える学生を対象として履修に関する個別相談も実施した。なお、これらに先立ち、4月4日に専任教員による勉強会を開催し、学部のカリキュラムやガイダンスでの説明内容等についての共通理解を醸成している。

上記のほか、4月4日から9日にかけて、①大学生活ガイダンス、②大学生活トラブル防止ガイダンス、③キャンパスハラスメント防止研修、④図書館ガイダンスを実施し、希望者には①就職に役立つキャリアガイダンス、②留学・国際交流ガイダンスも併せて実施した。

4. 入学前教育

学校推薦型入試及び総合選抜型入試の入学に対して、課題図書（38冊）を指定し、その中から任意に2冊を選ばせ、読書レポートを提出させた。この他、希望者には小論文講座やTOEICオンライン講座（いずれも有料）も用意し、一般選抜による入学者との学力差が生じないように配慮した。

5. 初年次教育

観光まちづくり学部では、1年次前期に講義科目「まちづくりと観光」「社会学概論」「社会調査法入門」、及び演習科目「導入ゼミナール」を必修科目として配置している。「まちづくりと観光」「社会学概論」は今後4年間学修していく観光まちづくりに関する導入科目、「社会調査法入門」は社会調査手法を学ぶ科目であり、これら3つの科目により学部の学びの基礎を築く。演習科目「導入ゼミナール」は、学生を15名前後の小グループに分け、それぞれのグループに専任教員1名を配置し、アカデミックリテラシーを修得させる。また、「導入ゼミナール」の各グループは、クラスルームの機能も有しており、担当教員がきめ細やかな学修支援を行い、後期中等教育から高等教育への接続を円滑にすることを企図している。

6. 施設・設備の整備状況

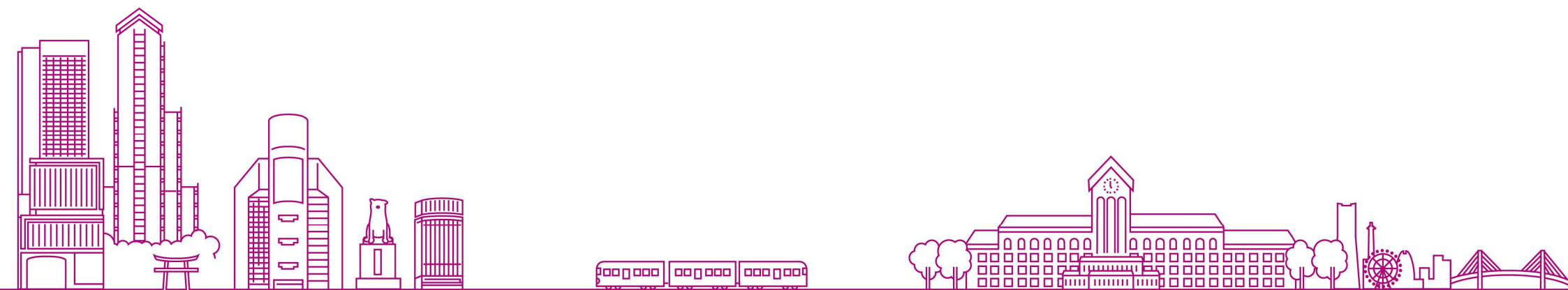
観光まちづくり学部に関する施設・設備については、「設置の趣旨等を記載した書類」に記載した通りに整備を行った。

以上のことから設置の趣旨・目的に照らして、令和4年5月1日時点としては当初の計画通りに実施できているものと考えている。

以上

観光まちづくり学部 専門教育科目

履修に関する説明会



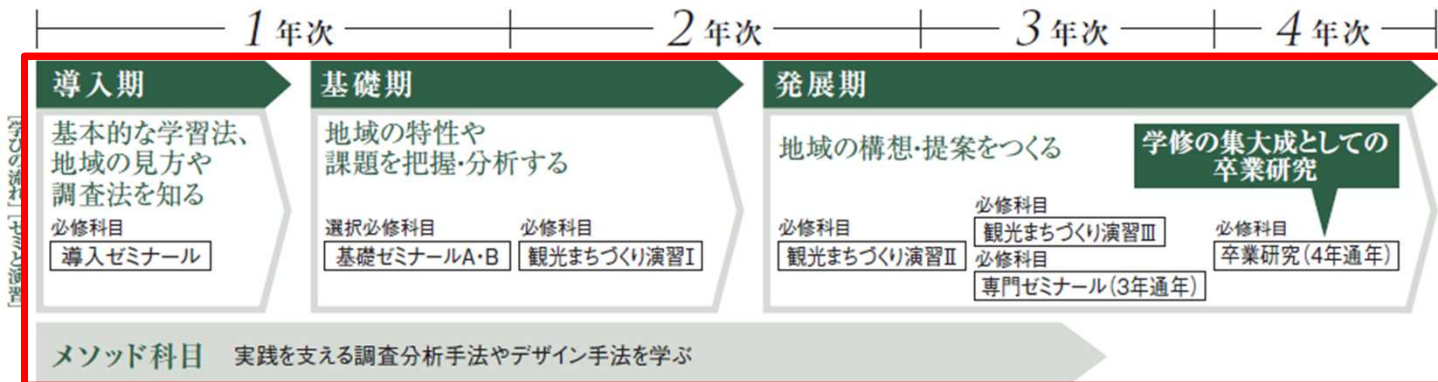
観光まちづくり学部のカリキュラム

観光・交流を基軸に持続可能な地域の形成及び振興に関する方法論を構築するとともに、豊かな教養と学識をもち、観光や交流を通じた活力あふれる地域社会の再生、活性化に貢献できる人材の育成

具体的には、

- 社会、資源、政策・計画、交流・産業、に関する知識・技能
- 地域の実情に応じた将来像を構想し、多くの人々と協働しつつ、よりよい未来へ向けての計画や提案を行い、実装に向けて行動できる意欲と能力

観光まちづくり学部のカリキュラム

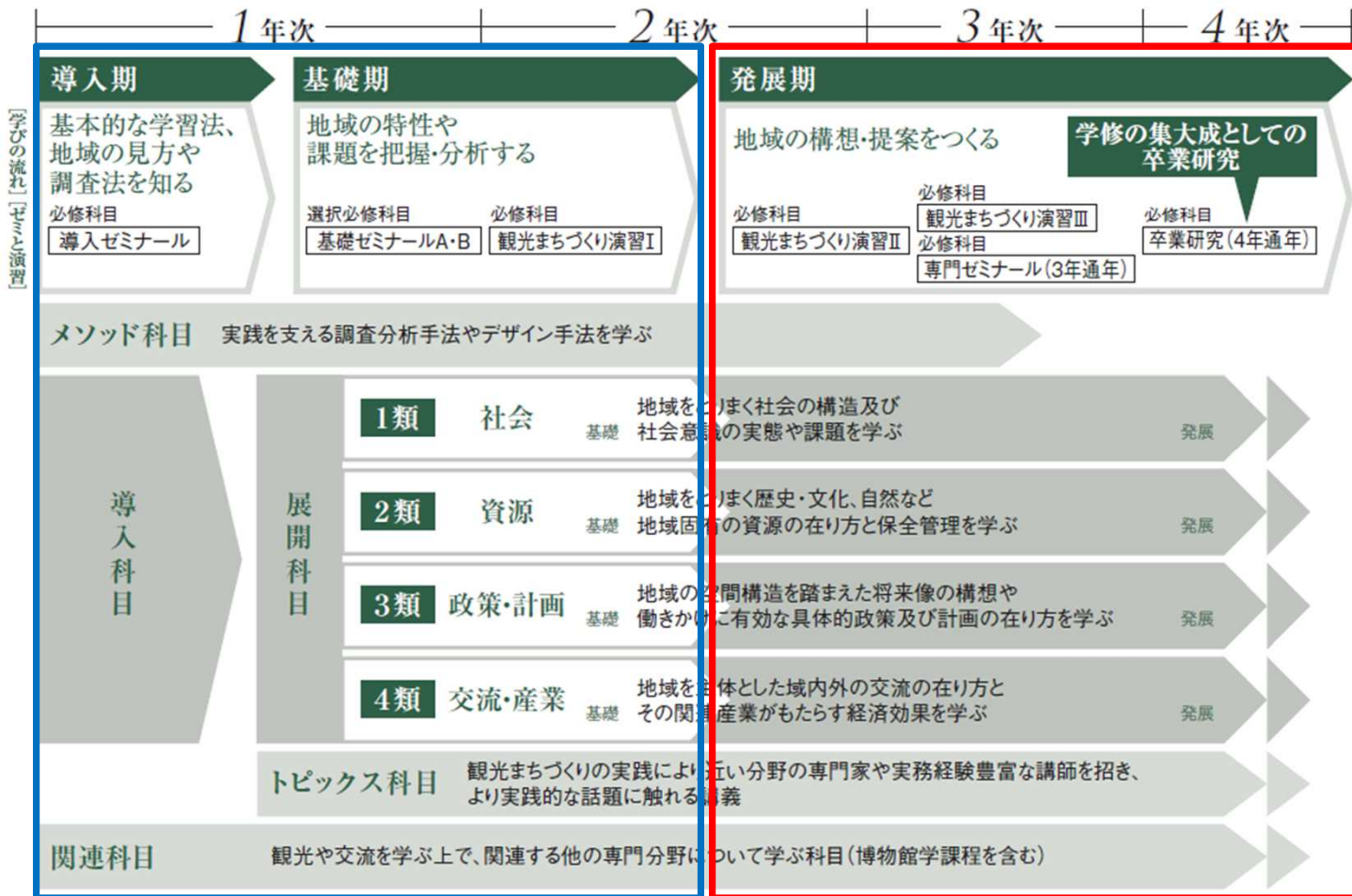


演習科目とメソッド科目で地域の実情に応じた将来像を構想し、多くの人々と協働しつつ、よりよい未来へ向けての計画や提案を行い、実装に向けて行動できる意欲と能力



導入科目から展開科目で社会、資源、政策・計画、交流・産業、に関する知識・技能を身につける

観光まちづくり学部のカリキュラム



導入期・基礎期

多様な社会のあり方に対する構造的な見方の基礎となる社会学の学びと、観光や交流が地域に与える影響の多面性や地域に働きかけるまちづくりの基本的な知識と考え方を身につけます。

発展期

学生の興味・関心及び希望する進路に応じて、観光まちづくりに関連するさらに多様な分野の応用的・実践的学びへと深めていきます。

科目区分



導入科目

メソッド科目

演習科目

展開科目 基礎／発展

- ・ I類 (社会)
- ・ II類 (資源)
- ・ III類 (政策・計画)
- ・ IV類 (交流・産業)

トピックス科目

関連科目

科目区分ごとの開講科目を履修要綱P65-66で確認してください

カリキュラムの構成と履修方法

科目区分		所要単位数	備考	
導入科目	必修	2科目 4単位		
メソッド科目	必修	1科目 2単位		
	選択必修	2科目 4単位		
演習	必修	6科目 18単位		
	選択必修	1科目 2単位		
展開科目	基礎Ⅰ類 (社会)	選択必修	2科目 4単位	左記の条件を満たした上で、 ・基礎Ⅰ～Ⅳ類で、13科目 26単位を修得すること。 ・展開科目全体で22科目 44単位以上を修得すること。
	基礎Ⅱ類 (資源)	必修	1科目 2単位	
		選択必修	2科目 4単位	
	基礎Ⅲ類 (政策・計画)	必修	1科目 2単位	
		選択必修	2科目 4単位	
	基礎Ⅳ類 (交流・産業)	必修	1科目 2単位	
選択必修		2科目 4単位		
発展Ⅰ～Ⅳ類	選択必修	6科目 12単位		
トピックス科目	選択			
関連科目	選択			
計		74単位		

卒業に必要な
科目・単位数

必修科目

科目区分	科目名
導入科目	まちづくりと観光、社会学概論
メソッド科目	社会調査法入門
演習科目	導入ゼミナール 観光まちづくり演習ⅠⅡⅢ 専門ゼミナール、卒業研究
展開科目	地域資源論 公共政策概論 観光学概論

マーカーで塗りつぶす

以上の科目を必ず修得すること

選択必修科目 メソッド科目

開講年次	科目名
1年次	プログラミングと数学基礎 統計分析の基礎
2年次	パブリックデザイン（地域と公共空間） パブリックデザイン（地域と杉） データサイエンス 質的調査法
3年次	多変量解析 地理空間情報分析

マークで大きく丸で囲む

以上の科目から、2科目4単位以上を修得すること

選択必修科目 演習科目

開講年次	科目名
1年次	基礎ゼミナールA
2年次	基礎ゼミナールB

マーカで大きく丸で囲む

以上の科目から、1科目2単位以上を修得すること

基礎ゼミナールAとBの履修に関する説明会を6月に開催するので、必ず出席して、指示にしたがって履修を検討すること。

選択必修科目 展開科目 基礎Ⅰ類

開講年次	科目名
1年次	文化社会学 コミュニケーション論
2年次	地域と環境の社会学 グローバルゼーション論

マーカで大きく丸で囲む

以上の科目から、2科目4単位以上を修得すること

選択必修科目 展開科目 基礎Ⅱ類

開講年次	科目名
1年次	博物館概論
2年次	都市建築史 民俗学概論 保全生態学概論

マーカで大きく丸で囲む

以上の科目から、2科目4単位以上を修得すること

選択必修科目 展開科目 基礎Ⅲ類

開講年次	科目名
2年次	地方自治概論 国土・都市計画論 地域デザイン論 都市と地域の交通

マーカで大きく丸で囲む

以上の科目から、2科目4単位以上を修得すること

選択必修科目 展開科目 基礎Ⅳ類

開講年次	科目名
1年次	観光マーケティング
2年次	観光政策・計画論 観光事業論

マーカで大きく丸で囲む

以上の科目から、2科目4単位以上を修得すること

展開科目

さらに…

- 基礎 I ~ IV類より、必修科目、選択必修科目を含め、13科目26単位を修得すること
- 発展 I ~ IV類より、6科目12単位以上を修得すること
- 展開科目全体で22科目44単位以上を修得すること

マーカで大きく丸で囲む

履修登録や成績発表の際に、修得単位数を必ず確認して、卒業要件を満たすように学修を進めること

履修条件

共通教育科目「経済理論入門」（1年・前期）



専門教育科目「地域と都市の経済」（2年・後期）

「地域と都市の経済」は、「経済理論入門」の単位修得が履修条件となる。

マーカーで塗りつぶす

履修が望ましい科目

専門教育科目

「プログラミングと数学基礎」 (1年・後期)



「データサイエンス」 (2年・後期)

「データサイエンス」は、「プログラミングと数学基礎」を事前に履修することが望まれる科目です。

履修要綱に書き込む

履修モデル（学部ガイドブックpp17-23）

履修モデルA：社会や生活の調査・分析から観光まちづくりを学びたい学生 p.18

履修モデルB：歴史・文化の保存と活用から観光まちづくりを学びたい学生 p.19

履修モデルC：自然・環境の保護と利用から観光まちづくりを学びたい学生 p.20

履修モデルD：公共政策から観光まちづくりを学びたい学生 p.21

履修モデルE：空間づくり・計画づくりから観光まちづくりを学びたい学生 p.22

履修モデルF：観光関連産業での事業・経営から観光まちづくりを学びたい学生 p.23

訂正（P18）

履修モデルA内の1年共通教育科目「科学的思考法」は必修科目ではありません。

社会や生活の調査・分析から 観光まちづくりを学びたい学生

- 地域を取り巻く社会や生活の分析と計画や政策の分析・策定・実行のための能力を身につけます。
- 展開科目Ⅰ類（社会）、メソッド科目、展開科目Ⅲ類（政策・計画）を積極的に履修します。

【進路】

公務員、コンサルタント、ジャーナリストや、NPO、NGO、出版、放送、広告、
商社、IT、金融など幅広い分野で活躍する人材

歴史・文化の保存と活用から 観光まちづくりを学びたい学生

- 歴史・文化の保存と活用につなげていくことを目指して、地域を取り巻く社会の分析、地域の空間構造・資源の把握、計画や政策の分析・策定・実行、地域主体の交流・産業の創出のための能力をバランス良く身につけます。
- 展開科目Ⅱ類（資源）の科目を中心に、歴史・文化を主な対象として扱う科目を各類から積極的に履修し、必要に応じて博物館学芸員課程を履修します。

【進路】

歴史・文化の保存と活用に関与する博物館等の学芸員や職員、公務員、

歴史・文化を有する地域の観光協会・DMO・まちづくり組織の職員、

歴史・文化を活用した宿泊業や旅行業の分野で活躍する人材、

上記に関する情報を集め、編集し、発信する出版、放送、広告等の分野で活躍する人材

自然・環境の保護と利用から 観光まちづくりを学びたい学生

- 自然・環境の保護と利用につなげていくことを目指して、地域を取り巻く社会の分析、地域の空間構造・資源の把握、計画や政策の分析・策定・実行、地域主体の交流・産業の創出のための能力をバランス良く身につけます
- 展開科目からⅡ類（資源）の科目を中心に、自然・環境を主な対象として扱う科目を各
類から積極的に履修し、関連科目も履修します

【想定される進路】

自然・環境の保護と利用に直接関与する公務員や環境関連組織、観光協会・DMO・まちづくり組織の職員、

自然・環境を利用した宿泊業や旅行業の分野で活躍する人材、

上記に関する情報を集め、編集し、発信する出版、放送、広告等の分野で活躍する人材

公共政策から 観光まちづくりを学びたい学生

- 展開科目Ⅲ類（政策・計画）の科目を特に多く履修しながら、メソッド科目、トピックス科目を多く履修し、政策や計画の分析・策定・実行のための能力を身につけます。
- 特に、3年次以降は、トピックス科目の履修を契機に実務的なものの見方も兼ね備えていきます。

【進路】

公務員、コンサルタント、NPO、NGO等の職員

出版、放送、広告の分野で活躍する人材

空間づくり・計画づくりから 観光まちづくりを学びたい学生

- 空間づくりや計画づくりにつなげていくことを目指して、地域を取り巻く社会の分析、地域の空間構造・資源の把握、計画や政策の分析・策定・実行のための能力をバランス良く身につけます。
- メソッド科目とトピックス科目を積極的に履修しながら、展開科目Ⅱ類（資源）とⅢ類（政策・計画）の科目、関連科目も履修します。2年次以降、トピックス科目の履修を契機に実務的なものの見方を兼ね備えていきます。

【進路】

宿泊業、建設業、不動産業、運輸交通業の分野

観光協会・DMO、まちづくり組織の職員、公務員として活躍する人材

観光関連産業での事業・経営から 観光まちづくりを学びたい学生

- 展開科目Ⅳ類（交流・産業）の科目を積極的に履修し、地域主体の交流・産業を創出するための能力を身につけます。
- 1年次からトピックス科目を履修し、実務的なものの見方を兼ね備えていきます。2年次には関連科目も履修します。

【進路】

宿泊業、旅行業、地域の観光協会・DMO等の観光産業及び、運輸交通業、起業、
商社、IT、金融、広告等の観光関連部門で活躍する人材

履修モデルを参考にする際の注意

- 履修モデルは、あくまで一例を示したものです。そっくりそのまま履修するのではなく、**自ら主体的に考えて**、自らの興味や関心、目指す進路に応じた科目を履修する。
- 「まちづくりと観光」「社会学概論」「社会調査法入門」「導入ゼミナール」で、**自らの興味や関心を掘り下げ**、進路について考え、1年後期以降の履修を計画する。